

申請様式①

申請様式

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	香川大学				
② 大学等の設置者	国立大学法人香川大学				
③ 設置形態	国立大学				
④ 所在地	香川県高松市幸町1番1号				
⑤ 申請するプログラム又は授業科目名称	数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム				
⑥ プログラムの開設年度	令和2年度				
⑦ 教員数	(常勤)	596	人		
	(非常勤)	80	人		
⑧ プログラムの授業を教えている教員数		21	人		
⑨ 全学部・学科の入学定員	1,239	人			
⑩ 全学部・学科の学生数(学年別)	総数	5609	人		
1年次	1,266	人	2年次	1,296	人
3年次	1,328	人	4年次	1,500	人
5年次	117	人	6年次	102	人
⑪ プログラムの運営責任者	(責任者名)	今井田 克己	(役職名)	理事・副学長(教育担当)	
⑫ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	大学教育基盤センター				
	(責任者名)	高橋尚志	(役職名)	センター長	
⑬ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	大学教育基盤センター 数理情報・遠隔教育部				
	(責任者名)	宮崎 英一	(役職名)	部会長	
⑭ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム				

連絡先

所属部署名	学務グループ	担当者名	橋 信孝
E-mail	gakusomut@kagawa-u.ac.jp	電話番号	087-832-1145

学校名：香川大学

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 具体的な修了要件

全学共通科目(全学必修科目)の情報リテラシーA(1単位)と情報リテラシーB(1単位)の計2単位を取得すること。

③ 授業科目名称

授業科目名称		授業科目名称
1	情報リテラシーA	26
2	情報リテラシーB	27
3		28
4		29
5		30
6		31
7		32
8		33
9		34
10		35
11		36
12		37
13		38
14		39
15		40
16		41
17		42
18		43
19		44
20		45
21		46
22		47
23		48
24		49
25		50

学校名： 香川大学

プログラムの履修者数等の実績について

学部・学科名称	収容定員	令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		平成27年度		履修者数合計	履修率
		履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
教育学部(教育)	680	165	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	165	24%
法学部(社会科学)	640	154	127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	154	24%
経済学部(社会科学)	1,050	260	211	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	260	25%
医学部(保健)	954	190	165	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190	20%
農学部(農学)	600	149	122	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	149	25%
創造工学部(工学)	990	329	247	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	329	33%
工学部(工学)	260	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
														0	
														0	
														0	
														0	
														0	
														0	
														0	
														0	
														0	
														0	
														0	
														0	
合計	5174	1,247	1,003	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,247	24%

学校名：香川大学

プログラムの授業内容・概要

① プログラムを構成する授業の内容・概要 (数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「導入」、「基礎」、「心得」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業概要	
<p>(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-1、導入1-6が該当</p>	<p>Society 5.0で実現する社会において、データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることをキーワードとなる知識を踏まえながら理解する。また、データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる。さらに、AIを活用した新しいビジネス/サービスがどのように社会に浸透しているか理解する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	情報リテラシーA L(1)	情報化社会に向けての著作権の注意点(2)
	情報リテラシーA L(2)	PC教室の使用法、注意事項の解説、Webブラウジングソフトの使用法(1)
	情報リテラシーA L(3)	情報セキュリティ、情報モラル(2)
	情報リテラシーA J(1)	ネットワークに関する基礎知識(6)
	情報リテラシーA J(2)	ネットワークに関する基礎知識(6)
	情報リテラシーA E(1)	情報セキュリティ、情報モラル(7)
	情報リテラシーA E(2)	情報セキュリティ、情報モラル(7)
	情報リテラシーA E(3)	情報セキュリティ、情報モラル(7)
	情報リテラシーA E(4)	情報セキュリティ、情報モラル(7)
	情報リテラシーA M(1)	インターネットの活用、ネットワークの脅威(2~3)
	情報リテラシーA M(2)	情報機器操作時の基本的、また倫理的な注意点。香川大学のコンピュータ・ネットワークサービスの概要。(1)
	情報リテラシーA T(1)	情報セキュリティ、情報モラル(8)
	情報リテラシーA T(2)	情報セキュリティ、情報モラル(8)
	情報リテラシーA T(3)	香川大学のインターネット環境および情報セキュリティポリシーを理解した上で、電子メールや各種サーバの基本的な利用方法について学習する。(2)
	情報リテラシーA T(4)	情報セキュリティと情報モラル(8)
	情報リテラシーA T(5)	インターネットとメールのセットアップ(2)
情報リテラシーA A	ガイダンス、Moodleの説明、情報セキュリティーとモラル及び図書館の利用法・情報検索・文献検索(1)	
情報リテラシーB	履修ガイダンス/データ・AIにおける心得、データサイエンスを活用した地域活性、データサイエンスと社会への応用、実社会のデータサイエンスの事例(1~4)	

<p>(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-2、導入1-3が該当</p>	授業概要	
	Society 5.0で実現する社会において、どんなデータが集められ、どう活用されているかを理解する。また、さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを理解する。これらを理解するために、地域(香川県域)における取り組みと、社会全般における取り組みの2つの観点から学習する。	
	授業科目名称	講義テーマ
	情報リテラシーB	履修ガイダンス/データ・AIにおける心得、データサイエンスを活用した地域活性、データサイエンスと社会への応用、実社会のデータサイエンスの事例(1~4)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-4、導入1-5が該当</p>	授業概要	
	Society 5.0で実現する社会において、データ・AIを活用するために使われている技術の概要を理解する。また、データ・AI利活用の現場データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを理解する。これらを理解するために、地域(香川県域)における取り組みと、社会全般における取り組みの2つの観点から学習する。	
	授業科目名称	講義テーマ
	情報リテラシーB	データサイエンスを活用した地域活性、データサイエンスと社会への応用、実社会のデータサイエンスの事例(2~4)

授業概要																																							
(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする ※モデルカリキュラム心得3-1、心得3-2が該当	Society 5.0で実現する社会に生きる我々が、データ・AIを利活用する上で知っておくべきことやデータを守る上で知っておくべきことを理解する。個人情報保護法などの動向を理解し、データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について理解する。さらに、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する。																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業科目名称</th> <th>講義テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報リテラシーA L(1)</td> <td>情報化社会に向けての著作権の注意点(2)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA L(2)</td> <td>PC教室の使用法、注意事項の解説、Webブラウジングソフトの使用法(1)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA L(3)</td> <td>情報セキュリティ、情報モラル(2)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA J(1)</td> <td>ネットワークに関する基礎知識、情報セキュリティに関する基礎知識(6~7)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA J(2)</td> <td>ネットワークに関する基礎知識、情報セキュリティに関する基礎知識(6~7)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA E(1)</td> <td>情報セキュリティ、情報モラル(7)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA E(2)</td> <td>情報セキュリティ、情報モラル(7)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA E(3)</td> <td>情報セキュリティ、情報モラル(7)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA E(4)</td> <td>情報セキュリティ、情報モラル(7)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA M(1)</td> <td>ネットワークの脅威、情報セキュリティ(3~4)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA M(2)</td> <td>情報機器操作時の基本的、また倫理的な注意点。香川大学のコンピュータ・ネットワークサービスの概要。(1)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA T(1)</td> <td>情報セキュリティ、情報モラル(8)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA T(2)</td> <td>情報セキュリティ、情報モラル(8)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA T(3)</td> <td>香川大学のインターネット環境および情報セキュリティポリシーを理解した上で、電子メールや各種サーバの基本的な利用方法について学習する。(2)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA T(4)</td> <td>情報セキュリティと情報モラル(8)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA T(5)</td> <td>インターネットとメールのセットアップ(2)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーA A</td> <td>ガイダンス、Moodleの説明、情報セキュリティーとモラル及び図書館の利用法・情報検索・文献検索(1)</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシーB</td> <td>履修ガイダンス/データ・AIにおける心得(1)</td> </tr> </tbody> </table>	授業科目名称	講義テーマ	情報リテラシーA L(1)	情報化社会に向けての著作権の注意点(2)	情報リテラシーA L(2)	PC教室の使用法、注意事項の解説、Webブラウジングソフトの使用法(1)	情報リテラシーA L(3)	情報セキュリティ、情報モラル(2)	情報リテラシーA J(1)	ネットワークに関する基礎知識、情報セキュリティに関する基礎知識(6~7)	情報リテラシーA J(2)	ネットワークに関する基礎知識、情報セキュリティに関する基礎知識(6~7)	情報リテラシーA E(1)	情報セキュリティ、情報モラル(7)	情報リテラシーA E(2)	情報セキュリティ、情報モラル(7)	情報リテラシーA E(3)	情報セキュリティ、情報モラル(7)	情報リテラシーA E(4)	情報セキュリティ、情報モラル(7)	情報リテラシーA M(1)	ネットワークの脅威、情報セキュリティ(3~4)	情報リテラシーA M(2)	情報機器操作時の基本的、また倫理的な注意点。香川大学のコンピュータ・ネットワークサービスの概要。(1)	情報リテラシーA T(1)	情報セキュリティ、情報モラル(8)	情報リテラシーA T(2)	情報セキュリティ、情報モラル(8)	情報リテラシーA T(3)	香川大学のインターネット環境および情報セキュリティポリシーを理解した上で、電子メールや各種サーバの基本的な利用方法について学習する。(2)	情報リテラシーA T(4)	情報セキュリティと情報モラル(8)	情報リテラシーA T(5)	インターネットとメールのセットアップ(2)	情報リテラシーA A	ガイダンス、Moodleの説明、情報セキュリティーとモラル及び図書館の利用法・情報検索・文献検索(1)	情報リテラシーB	履修ガイダンス/データ・AIにおける心得(1)
	授業科目名称	講義テーマ																																					
	情報リテラシーA L(1)	情報化社会に向けての著作権の注意点(2)																																					
	情報リテラシーA L(2)	PC教室の使用法、注意事項の解説、Webブラウジングソフトの使用法(1)																																					
	情報リテラシーA L(3)	情報セキュリティ、情報モラル(2)																																					
	情報リテラシーA J(1)	ネットワークに関する基礎知識、情報セキュリティに関する基礎知識(6~7)																																					
	情報リテラシーA J(2)	ネットワークに関する基礎知識、情報セキュリティに関する基礎知識(6~7)																																					
	情報リテラシーA E(1)	情報セキュリティ、情報モラル(7)																																					
	情報リテラシーA E(2)	情報セキュリティ、情報モラル(7)																																					
	情報リテラシーA E(3)	情報セキュリティ、情報モラル(7)																																					
	情報リテラシーA E(4)	情報セキュリティ、情報モラル(7)																																					
	情報リテラシーA M(1)	ネットワークの脅威、情報セキュリティ(3~4)																																					
	情報リテラシーA M(2)	情報機器操作時の基本的、また倫理的な注意点。香川大学のコンピュータ・ネットワークサービスの概要。(1)																																					
	情報リテラシーA T(1)	情報セキュリティ、情報モラル(8)																																					
	情報リテラシーA T(2)	情報セキュリティ、情報モラル(8)																																					
	情報リテラシーA T(3)	香川大学のインターネット環境および情報セキュリティポリシーを理解した上で、電子メールや各種サーバの基本的な利用方法について学習する。(2)																																					
	情報リテラシーA T(4)	情報セキュリティと情報モラル(8)																																					
	情報リテラシーA T(5)	インターネットとメールのセットアップ(2)																																					
	情報リテラシーA A	ガイダンス、Moodleの説明、情報セキュリティーとモラル及び図書館の利用法・情報検索・文献検索(1)																																					
	情報リテラシーB	履修ガイダンス/データ・AIにおける心得(1)																																					

授業概要		
<p>(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p> <p>※モデルカリキュラム基礎2-1、基礎2-2、基礎2-3が該当</p>	<p>数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法について、データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いを理解できる。また、適切な可視化手法を選択し、他者にデータを説明できるようになる。さらに、Microsoft Excelを用いた小規模データを集計・加工できるようになる。加えて、実際のAIサービスを利用して表形式のデータをどのように処理できるか理解する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	情報リテラシーA L(1)	表計算ソフト 成績処理への応用 グラフの作成(6)
	情報リテラシーA L(2)	表計算ソフト1 表計算ソフトの使用目的、表計算ソフト2 成績処理への応用、グラフの作成(5~6)
	情報リテラシーA L(3)	表計算(1)(Excelの概要、セル操作、関数)、表計算(2)(グラフの作成)(5~6)
	情報リテラシーA J(1)	表計算(Excelの基本操作と応用操作)(4)
	情報リテラシーA J(2)	表計算(Excelの基本操作と応用操作)(4)
	情報リテラシーA E(1)	表計算(1)(Excelの基本、数式の入力、式のコピー、表の作成)、表計算(2)(Excelの関数、グラフの作成、表の印刷)(4~5)
	情報リテラシーA E(2)	表計算(1)(Excelの基本、数式の入力、式のコピー、表の作成)、表計算(2)(Excelの関数、グラフの作成、表の印刷)(4~5)
	情報リテラシーA E(3)	表計算(1)(Excelの基本、数式の入力、式のコピー、表の作成)、表計算(2)(Excelの関数、グラフの作成、表の印刷)(4~5)
	情報リテラシーA E(4)	表計算(1)(Excelの基本、数式の入力、式のコピー、表の作成)、表計算(2)(Excelの関数、グラフの作成、表の印刷)(4~5)
	情報リテラシーA M(1)	実験データ分析 I (5)
	情報リテラシーA M(2)	Excelの概要、データの打ち込み方、グラフの作成。(8)
	情報リテラシーA T(1)	表計算(1)(Excelの概要、セル操作、ファイルの保存と読込)、表計算(2)(Excelの関数、図の作成、データベース機能)(4~5)
	情報リテラシーA T(2)	表計算(1)(Excelの概要、セル操作、ファイルの保存と読込)、表計算(2)(Excelの関数、図の作成、データベース機能)(4~5)
	情報リテラシーA T(3)	表計算ソフトウェアの基本的な使用方法を理解する。(6)
	情報リテラシーA T(4)	Excel(1) 基本操作、関数の利用、データの集計、Excel(2) 図表作成の基礎、Excel(3) 図表作成の応用、WordとExcelを使ったレポートの作成(3~6)
	情報リテラシーA T(5)	表計算(1) Excelの基礎、関数の利用、オートフィル、相対参照と絶対参照、表計算(2) 関数のグラフ化、散布図、数値計算(5~6)
	情報リテラシーA A	Excelを使った表計算とグラフ作成1、Excelを使った表計算とグラフ作成2(7~8)
	情報リテラシーB	データサイエンス入門1、データサイエンス入門2、機械学習の実装1、機械学習の実装2(5~8)

② プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「選択」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業科目名称
統計及び数理基礎	情報リテラシーB、情報リテラシーA
アルゴリズム基礎	情報リテラシーA
データ構造とプログラミング基礎	
時系列データ解析	情報リテラシーB
テキスト解析	
画像解析	情報リテラシーB
データハンドリング	情報リテラシーB
データ活用実践(教師あり学習)	情報リテラシーB
その他	情報リテラシーB(データ活用実践(教師なし学習))

③ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.kagawa-u.ac.jp/research/education/27230/>

④ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. 数理・データサイエンスの必要性を説明できる。
2. 地域を含む実社会での数理・データサイエンスの事例を例示できる。
3. どのような思考方法で数理・データサイエンスを扱うか、利用するアプリケーションも含めて説明できる。
4. 代表的な数理・データサイエンスの技術とその利点・欠点を概説できる。
5. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。

学校名：香川大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

香川大学大学教育基盤センター規程

② 体制の目的

香川大学大学教育基盤センターは、教養教育の充実及び教養教育と専門教育の有機的連携を図り、香川大学の教育目標を達成するため、全学共通科目に係る企画、運営等を行う組織である。

同センターは、本学の全学共通科目の授業実施を円滑に行うとともに、全学共通教育について自己点検・評価し、その改革・改善の方策について調査研究を行うことや大学教育の開発を行うことで、大学教育の質的充実に資することを目的とする。その中でも特に、ICTを活用した教育を対象として、同センターの数理情報・遠隔教育部が情報リテラシーB、情報リテラシー実施部会が情報リテラシーAの運用の責任母体となる。

③ 具体的な構成員

【数理情報・遠隔教育部】

教育学部 教授 宮崎 英一(数理情報・遠隔教育部長)

教育学部 教授 寺尾 徹

法学部 教授 山本 慎一

経済学部 教授 久松 博之

医学部 教授 横平 政直

創造工学部 教授 井面 仁志

創造工学部 教授 林 敏浩

創造工学部 准教授 後藤田 中

創造工学部 准教授 藤本 憲市

農学部 准教授 吉原 明秀

大学教育基盤センター 教授 長井 克己

大学教育基盤センター 准教授 佐藤 慶太

大学教育基盤センター 准教授 西本 佳代

大学教育基盤センター 特命講師 小坂 有資

大学教育基盤センター 特命助教 藤澤 修平

学術・地域連携推進室(情報グループ) 部門員 末廣 紀史

【情報リテラシー実施部会】

創造工学部 教授 林 敏浩(情報リテラシー実施部会長)

教育学部 教授 山田 貴志

教育学部 教授 宮崎 英一

法学部 教授 山本 慎一

経済学部 教授 久松 博之

医学部 教授 横井 英人

創造工学部 講師 荒木 裕行

農学部 教授 田中 直孝

大学教育基盤センター 教授 最上 英明

大学教育基盤センター グループ員 小橋 美幸

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

本プログラムを構成する科目は全学必修科目であり、全学生が履修する。

--

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学部・学科に関係なく全学生が受講可能になるように、本プログラムを構成する科目は全学必修科目としている。

--

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

学部・学科に関係なく全学生が受講可能になるように、本プログラムを構成する科目は全学必修科目としている。なお、履修漏れをふせぐため、1年次には教務システムに当該科目が自動登録される仕組みになっている。

--

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学部・学科に関係なく全学生が受講可能になるように、本プログラムを構成する科目は全学必修科目としている。なお、情報リテラシーBはe-Learning科目で運用されており、LMS上でいつでもどこからでも講義の閲覧が可能な環境を構築している。また、学習意欲の高い学生には情報リテラシーBの内容を超えた内容のe-Learningコンテンツも閲覧できるようにしている。一方、情報リテラシーAは対面授業を基本とするが、本学のLMS上に講義コースとして設定されており、履修者は講義資料などをいつでもどこからでも閲覧・取得が可能な環境を構築している。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

毎週、1コマ(90分)の対面によるオフィスアワーの時間を設けており、履修者は時間外に質問や問い合わせをすることができる。また、Web会議システムを利用してオンラインでもオフィスアワーの利用を可能としている。また、LMSを活用することにより履修指導や案内に関する情報を閲覧できる掲示板を運用している。さらに、教員のメールアドレスが開示されており、学生は電子メールにより質問や問い合わせをすることができる。



学校名：香川大学

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>情報リテラシーAは情報リテラシー実施部会において履修・修得状況を把握する。また、情報リテラシー実施部会では担当教員の陪席により実際の運用状況を部会で共有して、問題点や改善点の洗い出しを行う。e-Learning科目として運用する情報リテラシーBはLMSの学習ログデータから履修・取得状況の分析を実施し、履修データ分析システムの活用により、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況を把握することができる。これらの情報は大学教育基盤センター共通教育委員会で報告義務があり、上位委員でチェックを受ける体制となっている。</p>
学修成果	<p>e-Learning科目として運用する情報リテラシーBはLMSの学習ログデータから履修・取得状況の分析を実施して、授業内容の学生の理解度などの学習成果情報を把握できる。これら情報を数理情報・遠隔教育部(主幹)と情報リテラシー実施部会が連携して、教育プログラムの評価・改善に活用している。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>本プログラムの2科目を含む香川大学全学共通科目は学生による授業評価アンケートを実施しており、科目ごとに理解度等を分析できる仕組みになっている。また、情報リテラシーBは学生による授業評価アンケート以外の独自アンケートを実施しており、学生の内容の理解度をより深く調査できる。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本プログラムの2科目は全学必修科目なので、学生アンケートなどを用いた後輩等他の学生への推奨に関する明示的な取り組みは実施していない。なお、本プログラムの取り組みは教育工学系学会で成果報告をしている。さらに、本プログラムの取り組みが他機関によってWebなどで紹介されている。このような情報で学生への履修のモチベーションを高めるものは学生向けに周知する予定である。</p>
<p>全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本教育プログラムを構成する2科目(情報リテラシーA、情報リテラシーB)は令和2年度から全学必修であり、香川大学の全ての学生が履修する。また、数理情報・遠隔教育部会(主幹)と情報リテラシー実施部会を定期的実施し、全学における数理・データサイエンス・AI教育の内容について教育工学、情報工学、人工知能などの専門分野からの観点も取り入れ見直し等を検討し、より学生の履修を推進している。</p>

学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>令和6年度以降の卒業生調査において、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また、就職先を中心とした企業調査の仕組みを活用して、本教育プログラムを修了した卒業生における採用状況や企業評価を把握する仕組みを構築していく。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>情報リテラシーBで閲覧・学習できるe-Learningコンテンツは香川大学と株式会社ベネッセコーポレーションの数理・データサイエンス教育に関する共同研究の成果として提供されている(e-Learningコンテンツは香川大学、ベネッセコーポレーション、および株式会社キカガクによる共同開発である)。株式会社ベネッセコーポレーションは多様な業態の企業を顧客としているので、このような共同研究を踏まえ、本教育プログラム内容・手法には産業界の視点が十分反映されていると言える。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>スモールステップの原則に基づき、1年次第1クォーター、情報リテラシーAによりコンピュータ利用の基礎・基本を学び、それを踏まえ、第2クォーターで情報リテラシーBにより数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。情報リテラシーBでは時事やトレンドなど社会での実例として、地域の取り組み(香川県域における香川大学教員の実践事例)も交え、好奇心を促す講義内容としている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>学生による授業評価アンケート(全学共通の評価アンケートと情報リテラシーB独自のアンケート)及び共同研究企業(ベネッセ・コーポレーション)からの意見を参考に、情報リテラシーBについて、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の継続的な改善を検討する。また、情報リテラシーAでは情報リテラシーBを支える基礎科目と何を事前に学習すべきか、情報リテラシー実施部会で検討を進める。</p>

② 自己点検・評価体制における意見等の公表の有無 有

※公表している場合のアドレス

<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/teachers/news/fd-3-2-2-2/>

申請様式②

令和2年度のシラバス等

【情報リテラシーA】

情報リテラシーAでは、全学生は自身の所属する学部学科・コース等が提供する1科目を必ず履修する。以下にあるのは、それらの一覧である。

情報リテラシーA L(1)
情報リテラシーA L(2)
情報リテラシーA L(3)
情報リテラシーA J(1)
情報リテラシーA J(2)
情報リテラシーA E(1)
情報リテラシーA E(2)
情報リテラシーA E(3)
情報リテラシーA E(4)
情報リテラシーA M(1)
情報リテラシーA M(2)
情報リテラシーA T(1)
情報リテラシーA T(2)
情報リテラシーA T(3)
情報リテラシーA T(4)
情報リテラシーA T(5)
情報リテラシーA A

【情報リテラシーB】

情報リテラシーBは、全学共通のe-Learning科目である。

情報リテラシーB

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ 授業科目名	■ 科目区分	■ 時間割	■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA L(1) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 水2	1～ 全学共通科目
■ 講義題目	■ 水準・分野	■ DP・提供部局	■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
教育学部に必要な情報リテラシー Literacy in Information	B1INF	acdG	10
⑥ ■ 担当教員	■ 授業形態	⑤ ■ 単位数	■ 時間割コード
宮崎 英一[Miyazaki Eiichi]	Lx	1	082101

■ DP・提供部局

acdG

■ 授業形態

Lx

■ 関連授業科目

特に無し

■ 履修推奨科目

特に無し

■ 学習時間

(講義+演習)90分 × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

③ ■ 授業の概要

本講義は、教育学部学生が最低限必要と考えられるコンピュータ・リテラシーの習得を基礎におく。学部学生として基本的著作権、レポート・論文作成に必要なワードプロセッサや表計算の活用のみならず、プレゼンテーションツールの利用法・Webページの作成・登録方法も含めて学習することで、卒業論文作成・発表に必要なスキルを身につける。卒業後も学校教育現場において役立つ技術を養っていくものである。

■ 授業の目的

情報化の進む学校教育現場に対応しなければならない現実を踏まえ、教員に必要な最低限のコンピュータ操作能力、情報の収集・判断能力(著作権)を身に付ける(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)

① ■ 到達目標

- ・コンピュータの基本的な構成と機能を知り、操作ができること
- ・ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションを用いて、基本的な情報の処理ができること
- ・マルチメディアの特徴と利用方法を知ること。
- ・マルチメディアの作成に関して、ソフトウェアを選択して、表現や発信ができること
- ・情報リテラシーをベースに伝達方法の特徴と利用方法を知ること
- ・インターネットにおける著作権を理解した上で、情報を収集、判断、処理し、発信ができること。

⑦ ■ 成績評価の方法と基準

出席状況(学則等で認められた欠席を除く)、各種提出物(講義内容により異なる)の内容を基に、受講態度を勘案し総合的に評価を行う。

②④ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

学内における情報機器の使用法、及び次年度以降の教育・研究に必要な種々のアプリケーションソフトの基礎的な使用法の説明と実習を行っていく。さらに、自分のWebページを作成し学内での配信を行い情報発信の方法を身に付ける。

- (1) PC教室の使用法、注意事項の解説
- (2) 情報化社会に向けての著作権の注意点
- (3) 電子メール送受信とそのソフトウェア
- (4) 本学図書館における情報検索に関して
- (5) 日本語ワードプロセッサソフト 文書作成・整形
- (6) 表計算ソフト 成績処理への応用 グラフの作成
- (7) プレゼンテーションソフトの利用
- (8) Webページのコンテンツ作製ツールの利用 サンプルページの作成

【自学自習に関するアドバイス】

- (2)授業で学んだ点を復習しコンピュータの基本的操作に慣れよう準備する。(3時間)
- (3)添付ファイルの送信等、実際のレポート提出に活用できるように準備する。(6時間)
- (4)論文検索等、実際のレポート提出に活用できるように準備する。(3時間)
- (5)簡単なレポートの作成ができるように準備する。(4時間)
- (6)自分でデータのグラフ化ができるよう準備する、実際のレポートにこれらの機能を活用できるように準備する(6時間)
- (7)プレゼンテーションソフトの学習で学んだ事を生かしてプレゼンテーションを作成し、発表の準備する。(4時間)
- (8)自分のホームページに記載したい内容を予め準備する。(4時間)

■ 教科書・参考書等

文化系のためのコンピュータリテラシー 太田忠一編, サイエンス社
大学新入生のための情報リテラシー, 学術図書出版

購入の義務はありませんが以下を参考書として指定します。
久野靖, 佐藤義弘, 辰己丈夫, 中野由章監修:キーワードで学ぶ最新情報情報ト
ビックス2016, 日経BP社(2016) 1,296円(税込み) ISBN:978-4-8222-9217-1

■ オフィスアワー

宮崎:金曜日5時限目 8号館4F

■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

入学時に総合情報センターから配布される学生用メールアドレス及びログインパスワードが必要なので、授業開始には必ず持参すること。

■ 参照ホームページ

tech.ed.kagawa-u.ac.jp

■ メールアドレス

miya@ed.kagawa-u.ac.jp

■ 教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA L(2) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 木3	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
教育学部に必要な情報リテラシー Literacy in Information	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
黒田 勉[Kuroda Tsutomu]	Lx	1	082102

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

特に無し

■ ■ 履修推奨科目

特に無し

■ ■ 学習時間

(講義+演習)90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)

③ ■ ■ 授業の概要

本講義は、教育学部学生が最低限必要と考えられるコンピュータ・リテラシーの習得を基礎におく。学部学生として、レポート・論文作成に必要なワードプロセッサや表計算の活用のみならず、プレゼンテーションツールの利用法・Webページの作成・登録方法も含めて学習することで、卒業論文作成・発表に必要なスキルを身につける。卒業後も学校教育現場はもとより、ビジネスの分野にも役立つ技術を養っていくものである。

■ ■ 授業の目的

情報化の進む社会や学校教育現場に対応しなければならない現実を踏まえ、社会人・教員に必要な最低限のコンピュータ操作能力、情報の収集・判断能力(情報リテラシー)を身に付ける(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)。

① ■ ■ 到達目標

- ・コンピュータの基本的な構成と機能を知り、操作ができること
- ・ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションを用いて、基本的な情報の処理ができること
- ・マルチメディアの特徴と利用方法を知ること。
- ・マルチメディアの作成に関して、ソフトウェアを選択して、表現や発信ができること
- ・インターネットを中心とした情報の伝達方法の特徴と利用方法を知ること
- ・インターネットにおける情報を収集、判断、処理し、発信ができること。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

出席状況(学則等で認められた欠席を除く)、各種提出物(講義内容により異なるが、原則作成したファイルを所定のディレクトリに収納すること)の内容を基に、受講態度を勘案し総合的に評価を行う。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

学内における情報機器の使用法、及び次年度以降の教育・研究に必要な種々のアプリケーションソフトの基礎的な使用法の説明と実習を行っていく。さらに、自分のWebページを作成し学内での配信を基に、公序良俗に反しない情報発信の方法を身に付ける。

(1) PC教室の使用法、注意事項の解説、Webブラウジングソフトの使用法
・この時間は事前学習は不要であるが、PC利用の習熟のため事後学習(次時の事前学習を含む)が15時間以上必要

(2) キー入力方法、タッチタイピング練習
・この時間は事前学習は前時の事後学習を含めて15時間以上必要で、習熟のため事後学習が15時間以上必要

(3) 日本語ワードプロセッサソフト 文書作成・整形
・この時間は、アプリケーションソフトの起動、簡単な操作方法並びにアプリケーションソフトの終了方法を事前学習として15時間以上必要、また、習熟の

ため事後学習が15時間以上必要

(4) 表計算ソフト1 表計算ソフトの使用目的

・この時間は、アプリケーションソフトの起動、簡単な操作方法並びにアプリケーションソフトの終了方法を事前学習として15時間以上必要、また、習熟のため事後学習(次時の事前学習を含む)が15時間以上必要

(5) 表計算ソフト2 成績処理への応用、グラフの作成

・この時間は事前学習は前時の事後学習を含めて15時間以上必要で、習熟のため事後学習(次時の事前学習を含む)が15時間以上必要

(6) データの統合 文書へのグラフ貼り付け

・この時間は事前学習は前時の事後学習を含めて15時間以上必要で、習熟のため事後学習が15時間以上必要

(7) プレゼンテーションソフトの利用

・この時間は、アプリケーションソフトの起動、簡単な操作方法並びにアプリケーションソフトの終了方法を事前学習として15時間以上必要、また、習熟のため事後学習が15時間以上必要

(8) プレゼンテーション実習 ツールを使って各自が発表

・各自のデータ作成を事前学習として15時間以上必要、また、習熟のため事後学習が15時間以上必要

教科書・参考書等

購入の義務はありませんが以下を参考書として指定。

文化系のためのコンピュータリテラシー 太田忠一編, サイエンス社

久野晴, 佐藤義弘, 辰己丈夫, 中野由章監修:キーワードで学ぶ最新情報情報トピックス2016, 日経BP社(2016) 1,296円(税込み) ISBN:978-4-8222-9217-1

その他, 各種市販図書も参考にできる。

オフィスアワー

火曜日6コマ 8号館4F, または, 1F情報工学実験室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

入学時に学生証と同時に総合情報センターから配布される学生用メールアドレス及びログインパスワードが必要なので, 授業開始時には必ず持参すること。

質問等があるときは, 事前に kuroda@ed.kagawa-u.ac.jp 宛に連絡されたし。

参照ホームページ

tech.ed.kagawa-u.ac.jp

メールアドレス

kuroda@ed.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA L(3) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 金3	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ ■ ■ 特定プログラムとの対応
情報リテラシーA Information Literacy A	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
山田 貴志[Yamada Takashi]	Lx	1	082103

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

情報リテラシーB

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

(講義+演習)90分 × 8回 + 自学自習

③ ■ ■ 授業の概要

香川大学に入学する学生が、早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために、1年次生対象に開講される必修科目である。情報リテラシーとは、コンピューターが使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。座学・演習を組み合わせ、パソコンを操作しながら受講する実習形式の授業である。

■ ■ 授業の目的

現在、コンピューターやネットワーク(IT技術)は、社会の基盤として活用されている。すなわち、簡単な文書作成だけでなく、いろいろな設計情報やデータの整理、報告書の作成をコンピューターで行っている。また、メールやメッセージ、Webシステムによって人とのコミュニケーションにIT技術が用いられている。そこで、IT技術の基礎的な知識や利用方法を習得することを目標とする。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)

① ■ ■ 到達目標

1. パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。
2. ウェブブラウザの機能を理解し、種々のネットワークサービスが活用できる。
3. 電子メールの設定、送受信ができる。
4. インターネットや学内機器を利用する際のルールとマナーがわかっている。
5. インターネット上には様々な質の情報があることを踏まえ、情報を適切に検索できる。
6. 香川大学附属図書館利用のマナーを理解し、所蔵の図書・雑誌等を検索できる。
7. 文書作成ソフトを利用し、図表を含めレイアウトされた文書を作成できる。
8. 表計算ソフトを利用して、基本的な計算・集計とグラフの作成ができる。
9. プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。
10. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

期末試験は行わない。出席状況(学則等で認められた欠席を除く)、各種提出物(授業内容により異なる)の内容を基に、受講態度を勘案し総合的に評価を行う。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週: 授業ガイダンス、PC教室の使い方、web mail
- 第2週: 図書館における情報検索
- 第3週: 情報セキュリティ、情報モラル
- 第4週: 文書作成(Wordの概要、書式設定の基本、レイアウト)
- 第5週: 表計算(1)(Excelの概要、セル操作、関数)

第6週:表計算(2)(グラフの作成)

第7週:プレゼンテーション(1)(PowerPointの概要、画像の挿入)

第8週:プレゼンテーション(2)(アニメーション、スライドショー、配布資料の作成)

【授業および学習の方法】

各種ソフトウェアは「習うより慣れろ」ということで習った内容は、自分のノートPCを用いて自学自習や他の科目の課題などで積極的に使ってください。また、香川大学図書館 eBookLibraryに、情報リテラシーに関する電子図書が充実しているのでそれらも積極的に活用ください。

【自学自習のためのアドバイス】

第3週 グループ活動が中心の授業になる。各自で感じたことや考えたことを整理して、発表するための準備が必要になる。

第4～8週 毎時、授業中に課題が出る。各自でアプリケーションソフトの基礎的な使用法などがわかりやすい参考書を準備すること。時間内に課題をこなすことができなかった場合は、時間外の作業が必要になる。

教科書・参考書等

キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版、久野靖・佐藤義弘・辰己丈夫・中野由章監修、日経BP社、2019、(<https://moodle.itsc.kagawa-u.ac.jp/>) (香川大学 Moodle、カテゴリ:「2019年度コンテンツ」-「その他」、コース名:「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版」)
製本版もあります。ISBN: 978-4-8222-9234-8、1,404円(税込)。

オフィスアワー

金曜4時限目 8号館4階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

入学時に総合情報センターから配布される学生用メールアカウント及びログインパスワードが必要なので、授業開始には必ず持参すること。

参照ホームページ

メールアドレス

tyama@ed.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 **科目ナンバリングについて**

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA J(1) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 火3	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシー Information Literacy	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
米谷 雄介[Yusuke Kometani]	Lx	1	082201

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

(講義+演習)90分 × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

③ ■ ■ 授業の概要

香川大学に入学する学生が、早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために、1年次生対象に開講される必修科目である。座学・演習を組み合わせ、実際にパソコンを操作しながら受講する実習形式の授業である。一部の回で、e-Learning形式での(時間・場所に拘らない)授業を実施する可能性がある。

■ ■ 授業の目的

学内で提供される様々な情報サービス(香川大学Gmail等)を知ると同時に、ワープロ・表計算ソフト等の基本的なパソコンの利用技術のみならず、情報収集・分析を通じて、学内外の情報利用を適切に判断する能力やモラルに則って活用する能力を養う目的を持つ(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)。また、学内外で広がるe-Learning形式の授業を理解する目的も、一部組み込む可能性がある。

① ■ ■ 到達目標

- 1 パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。
- 2 ウェブブラウザの機能を理解し、各種のネットワークサービスを利用できる。
- 3 メールの設定と送受信ができる。
- 4 ワープロソフトを利用して、図や表を含めてレイアウトされた文書を作成できる。
- 5 表計算ソフトを利用して、基本的な集計とグラフの作成ができる。
- 6 プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。
- 7 インターネットや大学の共同利用パソコンを利用する際のルールとマナーを理解する。
- 8 ネットワークの脅威と基本的な対策を理解する。
- 9 インターネット上の情報を検索する手段と、収集した情報の質の問題を理解する。
- 10 香川大学図書館利用のマナーを理解し、図書館所蔵の図書・雑誌を検索できる。
- 11 コンピューターとネットワークに関する基本的な概念と用語を理解する。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

期末試験は実施しない。授業時間内に取り組む演習課題の回答(レポート内容)により総合判定を行う。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1回 学習で利用する主要な学内情報サービスの理解(LMS・メール等)
- 第2回 PCルーム/ファイル/メール利用における基本操作およびマナー
- 第3回 文書作成(Wordの基本操作と応用操作)
- 第4回 表計算(Excelの基本操作と応用操作)
- 第5回 プレゼンテーション(PowerPointの基本操作と応用操作)
- 第6回 ネットワークに関する基礎知識

第7回 情報セキュリティに関する基礎知識

第8回 総合演習

ただし、上記の内容は変更する可能性がある。

【授業及び学習の方法】

基本的に対面で授業を実施するが、一部の回の受講は、インターネットに接続できる端末からLMS(Learning Management System)にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる可能性がある。この場合、出席確認も兼ねて各回毎に理解度を判定するレポートを課すことになる。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1回
- ・事前: 入学式ガイダンスで配布された総合情報センターのパンフレットを確認し、学内情報サービスを把握する。(2時間)
 - ・事後: 授業の振り返りとして学内情報サービスを使ってみる(2時間)
- 第2回
- ・事前: 総合情報センターのパンフレットを確認し授業で用いる以外のPCルームについても場所を把握しておく。(2時間)
 - ・事後: メール利用における基本操作およびマナーについてはインターネットで検索しておき基本的なルールを確認すると同時に、友人や家族のメールで実践してみる(2時間)
- 第3回
- ・事前: PCルームでWordを実際に起動して画面構成を事前に確認しておく(2時間)
 - ・事後: 授業資料を参考にしながら他の授業のレポート作成においても体裁を修正するなど学んだことを活かす(2時間)
- 第4回
- ・事前: PCルームでExcelを実際に起動して画面構成を事前に確認しておく(2時間)
 - ・事後: 自分の週間スケジュールやタスクリストを作るなど実際の場面に役立つ表を作成してみる(2時間)
- 第5回
- ・事前: PCルームでPowerPointを実際に起動して画面構成を事前に確認しておく(2時間)
 - ・事後: 他の授業でノートでまとめた内容を、図や表を含めたプレゼンテーションの形式に直し綺麗に整形してみる(3時間)
- 第6回
- ・事前: 指定教科書のネットワーク編について事前に読み込んでおく(1時間)
 - ・事後: 指定教科書のネットワーク編について確認テストを受験し、満点が取れるまで繰り返す(1時間)
- 第7回
- ・事前: 指定教科書の情報セキュリティ編について事前に読み込んでおく(1時間)
 - ・事後: 指定教科書の情報セキュリティ編について確認テストを受験し、満点が取れるまで繰り返す(1時間)
- 第8回
- ・事前: 第1回～第7回に関する理解度の確認レポートが授業時間内に行われるので、第1回～第7回で実施した演習は一人でも解けるように練習しておく(1時間)
 - ・事後: 第1回～第7回の資料を振り返り、自分ができるようになったことや改善点などを書き出してみる(1時間)

教科書・参考書等

以下の教科書に加え、授業毎に追加資料(PDF)をダウンロード配布する。なお、初回授業時に追加の授業資料入手方法について説明する。

【教科書】久野靖、佐藤義弘、辰己丈夫、中野由章 監修, "キーワードで学ぶ最新情報トピックス2020", 日経BP社, B5判, 216ページ, 1,430円(税込)

オフィスアワー

時間: 火曜日16:30-17:30

場所: 総合情報センター1F事務室

※質問等がある場合は、事務室の窓口を通じて、担当教員に照会すること。センター事務室の窓口業務終了後(17:15以降)も呼び鈴で対応可。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大学からの事務連絡をメールや履修登録システムから知る術を学ぶ等、これからの大学生活にとって、とても大切な授業となります。成績も授業で出題されるレポート課題で決まるため、必ず出席してください。なお、教室は図書館内にあるため、他の利用者の迷惑とならないよう、静粛に入退室願います。

参照ホームページ

メールアドレス

kometani@eng.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 **科目ナンバリングについて**

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA J(2) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 火4	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシー Information Literacy	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
米谷 雄介[Yusuke Kometani]	Lx	1	082202

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

(講義+演習)90分 × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

③ ■ ■ 授業の概要

香川大学に入学する学生が、早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために、1年生対象に開講される必修科目である。座学・演習を組み合わせ、実際にパソコンを操作しながら受講する実習形式の授業である。一部の回で、e-Learning形式での(時間・場所に拘らない)授業を実施する可能性がある。

■ ■ 授業の目的

学内で提供される様々な情報サービス(香川大学Gmail等)を知ると同時に、ワープロ・表計算ソフト等の基本的なパソコンの利用技術のみならず、情報収集・分析を通じて、学内外の情報利用を適切に判断する能力やモラルに則って活用する能力を養う目的を持つ(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)。また、学内外で広がるe-Learning形式の授業を理解する目的も、一部組み込む可能性がある。

① ■ ■ 到達目標

- 1 パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。
- 2 ウェブブラウザの機能を理解し、各種のネットワークサービスを利用できる。
- 3 メールの設定と送受信ができる。
- 4 ワープロソフトを利用して、図や表を含めてレイアウトされた文書を作成できる。
- 5 表計算ソフトを利用して、基本的な集計とグラフの作成ができる。
- 6 プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。
- 7 インターネットや大学の共同利用パソコンを利用する際のルールとマナーを理解する。
- 8 ネットワークの脅威と基本的な対策を理解する。
- 9 インターネット上の情報を検索する手段と、収集した情報の質の問題を理解する。
- 10 香川大学図書館利用のマナーを理解し、図書館所蔵の図書・雑誌を検索できる。
- 11 コンピューターとネットワークに関する基本的な概念と用語を理解する。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

期末試験は実施しない。授業時間内に取り組む演習課題の回答(レポート内容)により総合判定を行う。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1回 学習で利用する主要な学内情報サービスの理解(LMS・メール等)
- 第2回 PCルーム/ファイル/メール利用における基本操作およびマナー
- 第3回 文書作成(Wordの基本操作と応用操作)
- 第4回 表計算(Excelの基本操作と応用操作)
- 第5回 プレゼンテーション(PowerPointの基本操作と応用操作)
- 第6回 ネットワークに関する基礎知識

第7回 情報セキュリティに関する基礎知識

第8回 総合演習

ただし、上記の内容は変更する可能性がある。

【授業及び学習の方法】

基本的に対面で授業を実施するが、一部の回の受講は、インターネットに接続できる端末からLMS(Learning Management System)にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる可能性がある。この場合、出席確認も兼ねて各回毎に理解度を判定するレポートを課すことになる。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1回
- ・事前: 入学式ガイダンスで配布された総合情報センターのパンフレットを確認し、学内情報サービスを把握する。(2時間)
 - ・事後: 授業の振り返りとして学内情報サービスを使ってみる(2時間)
- 第2回
- ・事前: 総合情報センターのパンフレットを確認し授業で用いる以外のPCルームについても場所を把握しておく。(2時間)
 - ・事後: メール利用における基本操作およびマナーについてはインターネットで検索しておき基本的なルールを確認すると同時に、友人や家族のメールで実践してみる(2時間)
- 第3回
- ・事前: PCルームでWordを実際に起動して画面構成を事前に確認しておく(2時間)
 - ・事後: 授業資料を参考にしながら他の授業のレポート作成においても体裁を修正するなど学んだことを活かす(2時間)
- 第4回
- ・事前: PCルームでExcelを実際に起動して画面構成を事前に確認しておく(2時間)
 - ・事後: 自分の週間スケジュールやタスクリストを作るなど実際の場面に役立つ表を作成してみる(2時間)
- 第5回
- ・事前: PCルームでPowerPointを実際に起動して画面構成を事前に確認しておく(2時間)
 - ・事後: 他の授業でノートでまとめた内容を、図や表を含めたプレゼンテーションの形式に直し綺麗に整形してみる(3時間)
- 第6回
- ・事前: 指定教科書のネットワーク編について事前に読み込んでおく(1時間)
 - ・事後: 指定教科書のネットワーク編について確認テストを受験し、満点が取れるまで繰り返す(1時間)
- 第7回
- ・事前: 指定教科書の情報セキュリティ編について事前に読み込んでおく(1時間)
 - ・事後: 指定教科書の情報セキュリティ編について確認テストを受験し、満点が取れるまで繰り返す(1時間)
- 第8回
- ・事前: 第1回～第7回に関する理解度の確認レポートが授業時間内に行われるので、第1回～第7回で実施した演習は一人でも解けるように練習しておく(1時間)
 - ・事後: 第1回～第7回の資料を振り返り、自分ができるようになったことや改善点などを書き出してみる(1時間)

教科書・参考書等

以下の教科書に加え、授業毎に追加資料(PDF)をダウンロード配布する。なお、初回授業時に追加の授業資料入手方法について説明する。

【教科書】久野靖、佐藤義弘、辰己丈夫、中野由章 監修, "キーワードで学ぶ最新情報トピックス2020", 日経BP社, B5判, 216ページ, 1,430円(税込)

オフィスアワー

時間: 火曜日16:30-17:30

場所: 総合情報センター1F事務室

※質問等がある場合は、事務室の窓口を通じて、担当教員に照会すること。センター事務室の窓口業務終了後(17:15以降)も呼び鈴で対応可。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大学からの事務連絡をメールや履修登録システムから知る術を学ぶ等、これからの大学生活にとって、とても大切な授業となります。成績も授業で出題されるレポート課題で決まるため、必ず出席してください。なお、教室は図書館内にあるため、他の利用者の迷惑とならないよう、静粛に入退室願います。

参照ホームページ

メールアドレス

kometani@eng.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA E(1) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 水3	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシー A information literacy A	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
久松 博之 [Hisamatsu Hiroyuki]	Lx	1	082301

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

情報リテラシーB

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×8回＋自学自習(準備学習 16時間＋事後学習 16時間)

③ ■ ■ 授業の概要

経済学部1年生を対象とし、早期に身につけるべき情報リテラシーの講義をする。情報リテラシーとは、コンピューターが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。実際にパソコンを操作する実習形式の授業である。必修科目であるので必ず受講すること。

■ ■ 授業の目的

コンピューターの基本的な操作、学内で提供される情報サービス(香川大学Gmail、Moodle等)、各種ソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション等)の利用技術を身につける。
情報を収集して適正に選択し、利用するための基礎的な技能を習得する。

① ■ ■ 到達目標

1. パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。
 2. ウェブブラウザの機能を理解し、種々のネットワークサービスが活用できる。
 3. 電子メールの設定、送受信ができる。
 4. インターネットや学内機器を利用する際のルールとマナーがわかっている。
 5. インターネット上には様々な質の情報があることを踏まえ、情報を適切に検索できる。
 6. 文書作成ソフトを利用して、図表を含めレイアウトされた文書を作成できる。
 7. 表計算ソフトを利用して、基本的な計算・集計とグラフの作成ができる。
 8. プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。
 9. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。
- 以上、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

受講態度、課題、総合テストで総合的に評価する。
期末試験は行わない。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週: 授業ガイダンス、PC教室の使い方、香川大学Gmail、各種Webサービス
 第2週: 文書作成(1)(Wordの基本、書式設定、図表の挿入、段落番号と箇条書き等)
 第3週: 文書作成(2)(インデント、段組み、スタイル、脚注等)
 第4週: 表計算(1)(Excelの基本、数式の入力、式のコピー、表の作成)
 第5週: 表計算(2)(Excelの関数、グラフの作成、表の印刷)
 第6週: プレゼンテーション(PowerPointの基本、デザイン、画像・グラフ・表等の挿入と操作、アニメーション、スライドショー、スライド番号の挿入)

第7週: 情報セキュリティ、情報モラル

第8週: 総合テスト

上記計画は、変更される可能性がある。

【授業および学習の方法】

授業内容や参考資料を「香川大学Moodle」で提供するので、必ず目を通して予習・復習すること。また、分からないことは積極的に質問して復習すること。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- ・準備学習: 2時間×8回=16時間
- ・事後学習: 2時間×8回=16時間

教科書・参考書等

教科書: 教科書は使用しない。

参考書: キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版、久野靖・佐藤義弘・辰己丈夫・中野由章監修、日経BP社、2019、(<https://moodle.itc.kagawa-u.ac.jp/>) (香川大学 Moodle、カテゴリ:「2019年度コンテンツ」-「その他」、コース名:「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版」)

製本版もあります。ISBN: 978-4-8222-9234-8、1,404円(税込)。

オフィスアワー

平日13:30~15:00まで経済学部共同研究室(交友会館2階)で対応する。その他にも時間が許す限り受け付ける。
なお、質問等は電子メール(jkisoec@ec.kagawa-u.ac.jp)でも受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は1年生の必修科目である。単位が取得できない場合は、再履修を要する。

参照ホームページ

メールアドレス

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA E(2) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 水4	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシー A information literacy A	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
久松 博之 [Hisamatsu Hiroyuki]	Lx	1	082302

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

情報リテラシーB

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×8回＋自学自習(準備学習 16時間＋事後学習 16時間)

③ ■ ■ 授業の概要

経済学部1年生を対象とし、早期に身につけるべき情報リテラシーの講義をする。情報リテラシーとは、コンピューターが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。実際にパソコンを操作する実習形式の授業である。必修科目であるので必ず受講すること。

■ ■ 授業の目的

コンピューターの基本的な操作、学内で提供される情報サービス(香川大学Gmail、Moodle等)、各種ソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション等)の利用技術を身につける。
情報を収集して適正に選択し、利用するための基礎的な技能を習得する。

① ■ ■ 到達目標

1. パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。
 2. ウェブブラウザの機能を理解し、種々のネットワークサービスが活用できる。
 3. 電子メールの設定、送受信ができる。
 4. インターネットや学内機器を利用する際のルールとマナーがわかっている。
 5. インターネット上には様々な質の情報があることを踏まえ、情報を適切に検索できる。
 6. 文書作成ソフトを利用して、図表を含めレイアウトされた文書を作成できる。
 7. 表計算ソフトを利用して、基本的な計算・集計とグラフの作成ができる。
 8. プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。
 9. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。
- 以上、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

受講態度、課題、総合テストで総合的に評価する。
期末試験は行わない。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週: 授業ガイダンス、PC教室の使い方、香川大学Gmail、各種Webサービス
第2週: 文書作成(1)(Wordの基本、書式設定、図表の挿入、段落番号と箇条書き等)
第3週: 文書作成(2)(インデント、段組み、スタイル、脚注等)
第4週: 表計算(1)(Excelの基本、数式の入力、式のコピー、表の作成)
第5週: 表計算(2)(Excelの関数、グラフの作成、表の印刷)
第6週: プレゼンテーション(PowerPointの基本、デザイン、画像・グラフ・表等の挿入と操作、アニメーション、スライドショー、スライド番号の挿入)

第7週: 情報セキュリティ、情報モラル

第8週: 総合テスト

上記計画は、変更される可能性がある。

【授業および学習の方法】

授業内容や参考資料を「香川大学Moodle」で提供するので、必ず目を通して予習・復習すること。また、分からないことは積極的に質問して復習すること。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

・準備学習: 2時間×8回=16時間

・事後学習: 2時間×8回=16時間

教科書・参考書等

教科書: 教科書は使用しない。

参考書: キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版、久野靖・佐藤義弘・辰己丈夫・中野由章監修、日経BP社、2019、(<https://moodle.itc.kagawa-u.ac.jp/>) (香川大学 Moodle、カテゴリ:「2019年度コンテンツ」-「その他」、コース名:「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版」)

製本版もあります。ISBN: 978-4-8222-9234-8、1,404円(税込)。

オフィスアワー

平日13:30~15:00まで経済学部共同研究室(交友会館2階)で対応する。その他にも時間が許す限り受け付ける。

なお、質問等は電子メール(jkisoec@ec.kagawa-u.ac.jp)でも受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は1年生の必修科目である。単位が取得できない場合は、再履修を要する。

参照ホームページ

メールアドレス

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA E(3) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 金3	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシー A information literacy A	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
久松 博之 [Hisamatsu Hiroyuki]	Lx	1	082303

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

情報リテラシーB

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×8回＋自学自習(準備学習 16時間＋事後学習 16時間)

③ ■ ■ 授業の概要

経済学部1年生を対象とし、早期に身につけるべき情報リテラシーの講義をする。情報リテラシーとは、コンピューターが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。
実際にパソコンを操作する実習形式の授業である。必修科目であるので必ず受講すること。

■ ■ 授業の目的

コンピューターの基本的な操作、学内で提供される情報サービス(香川大学Gmail、Moodle等)、各種ソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション等)の利用技術を身につける。
情報を収集して適正に選択し、利用するための基礎的な技能を習得する。

① ■ ■ 到達目標

1. パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。
 2. ウェブブラウザの機能を理解し、種々のネットワークサービスが活用できる。
 3. 電子メールの設定、送受信ができる。
 4. インターネットや学内機器を利用する際のルールとマナーがわかっている。
 5. インターネット上には様々な質の情報があることを踏まえ、情報を適切に検索できる。
 6. 文書作成ソフトを利用して、図表を含めレイアウトされた文書を作成できる。
 7. 表計算ソフトを利用して、基本的な計算・集計とグラフの作成ができる。
 8. プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。
 9. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。
- 以上、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

受講態度、課題、総合テストで総合的に評価する。
期末試験は行わない。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週: 授業ガイダンス、PC教室の使い方、香川大学Gmail、各種Webサービス
 第2週: 文書作成(1)(Wordの基本、書式設定、図表の挿入、段落番号と箇条書き等)
 第3週: 文書作成(2)(インデント、段組み、スタイル、脚注等)
 第4週: 表計算(1)(Excelの基本、数式の入力、式のコピー、表の作成)
 第5週: 表計算(2)(Excelの関数、グラフの作成、表の印刷)
 第6週: プレゼンテーション(PowerPointの基本、デザイン、画像・グラフ・表等の挿入と操作、アニメーション、スライドショー、スライド番号の挿入)

第7週: 情報セキュリティ、情報モラル

第8週: 総合テスト

上記計画は、変更される可能性がある。

【授業および学習の方法】

授業内容や参考資料を「香川大学Moodle」で提供するので、必ず目を通して予習・復習すること。また、分からないことは積極的に質問して復習すること。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- ・準備学習: 2時間×8回=16時間
- ・事後学習: 2時間×8回=16時間

教科書・参考書等

教科書: 教科書は使用しない。

参考書: キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版、久野靖・佐藤義弘・辰己丈夫・中野由章監修、日経BP社、2019、(<https://moodle.itc.kagawa-u.ac.jp/>) (香川大学 Moodle、カテゴリ:「2019年度コンテンツ」-「その他」、コース名:「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版」)

製本版もあります。ISBN: 978-4-8222-9234-8、1,404円(税込)。

オフィスアワー

平日13:30~15:00まで経済学部共同研究室(交友会館2階)で対応する。その他にも時間が許す限り受け付ける。

なお、質問等は電子メール(jkisoec@ec.kagawa-u.ac.jp)でも受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は1年生の必修科目である。単位が取得できない場合は、再履修を要する。

参照ホームページ

メールアドレス

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA E(4) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 金4	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシー A information literacy A	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
久松 博之 [Hisamatsu Hiroyuki]	Lx	1	082304

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

情報リテラシーB

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×8回＋自学自習(準備学習 16時間＋事後学習 16時間)

③ ■ ■ 授業の概要

経済学部1年生を対象とし、早期に身につけるべき情報リテラシーの講義をする。情報リテラシーとは、コンピューターが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。
実際にパソコンを操作する実習形式の授業である。必修科目であるので必ず受講すること。

■ ■ 授業の目的

コンピューターの基本的な操作、学内で提供される情報サービス(香川大学Gmail、Moodle等)、各種ソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション等)の利用技術を身につける。
情報を収集して適正に選択し、利用するための基礎的な技能を習得する。

① ■ ■ 到達目標

1. パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。
 2. ウェブブラウザの機能を理解し、種々のネットワークサービスが活用できる。
 3. 電子メールの設定、送受信ができる。
 4. インターネットや学内機器を利用する際のルールとマナーがわかっている。
 5. インターネット上には様々な質の情報があることを踏まえ、情報を適切に検索できる。
 6. 文書作成ソフトを利用して、図表を含めレイアウトされた文書を作成できる。
 7. 表計算ソフトを利用して、基本的な計算・集計とグラフの作成ができる。
 8. プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。
 9. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。
- 以上、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

受講態度、課題、総合テストで総合的に評価する。
期末試験は行わない。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週: 授業ガイダンス、PC教室の使い方、香川大学Gmail、各種Webサービス
 第2週: 文書作成(1)(Wordの基本、書式設定、図表の挿入、段落番号と箇条書き等)
 第3週: 文書作成(2)(インデント、段組み、スタイル、脚注等)
 第4週: 表計算(1)(Excelの基本、数式の入力、式のコピー、表の作成)
 第5週: 表計算(2)(Excelの関数、グラフの作成、表の印刷)
 第6週: プレゼンテーション(PowerPointの基本、デザイン、画像・グラフ・表等の挿入と操作、アニメーション、スライドショー、スライド番号の挿入)

第7週: 情報セキュリティ、情報モラル

第8週: 総合テスト

上記計画は、変更される可能性がある。

【授業および学習の方法】

授業内容や参考資料を「香川大学Moodle」で提供するので、必ず目を通して予習・復習すること。また、分からないことは積極的に質問して復習すること。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- ・準備学習: 2時間×8回=16時間
- ・事後学習: 2時間×8回=16時間

教科書・参考書等

教科書: 教科書は使用しない。

参考書: キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版、久野靖・佐藤義弘・辰己丈夫・中野由章監修、日経BP社、2019、(<https://moodle.itc.kagawa-u.ac.jp/>) (香川大学 Moodle、カテゴリ:「2019年度コンテンツ」-「その他」、コース名:「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版」)
製本版もあります。ISBN: 978-4-8222-9234-8、1,404円(税込)。

オフィスアワー

平日13:30~15:00まで経済学部共同研究室(交友会館2階)で対応する。その他にも時間が許す限り受け付ける。
なお、質問等は電子メール(jkisoec@ec.kagawa-u.ac.jp)でも受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業は1年生の必修科目である。単位が取得できない場合は、再履修を要する。

参照ホームページ

メールアドレス

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ 授業科目名	■ 科目区分	■ 時間割	■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA M(1) Information Literacy A	情報リテラシー	2Q 金5	1～ 全学共通科目
■ 講義題目	■ 水準・分野	■ DP・提供部局	■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシーA(Information Literacy A)	B1INF	acdG	10
⑥ ■ 担当教員	■ 授業形態	⑤ ■ 単位数	■ 時間割コード
横井 英人[Yokoi Hideto]	Lx	1	082401

■ DP・提供部局

acdG

■ 授業形態

Lx

■ 関連授業科目

■ 履修推奨科目

■ 学習時間

授業90分×8回＋自学時間(準備学習:不要＋事後学習:各演習後に1時間程度(目安))

③ ■ 授業の概要

本科目は、香川大学に入学する全学生が、早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために、1年次生対象に開講される必修科目で、座学・演習を組み合わせた授業である。情報リテラシーとは、パーソナルコンピュータ(PC)が使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。(指導協力:四国職業能力開発大学校)

■ 授業の目的

電子カルテシステムをはじめとする様々な病院情報システムの利用、医療機器の制御、医療データの解析、論文執筆、学会発表の準備などを効率的に行うため、PCを操作する能力は、医師にとって非常に重要である。本授業は、今後の人生に密接に関係する、情報処理技術の必要最低限の知識を身につける(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)ことを目的とする。

① ■ 到達目標

1. パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。
2. Webブラウザの機能を理解し、各種ネットワークサービスを利用できる。
3. ワードプロを利用して、図や表を含めてレイアウトされた文書を作成できる。
4. 表計算ソフトを利用して、基本的な集計とグラフの作成ができる。
5. プレゼンテーションソフトを用いて、スライドや配布資料を作成できる。
6. インターネットや大学の共同利用パソコンを利用する際のルールとマナーを理解する。
7. ネットワークの脅威と基本的な対策を理解する。
8. インターネット上の情報を検索する手段と収集した情報の質の問題を理解する。
9. コンピュータとネットワークに関する基本的な概念と用語を理解する。

⑦ ■ 成績評価の方法と基準

出席状況、レポート、小テストなどにより総合的に評価する。全授業回数の3分の2以上の出席は必須。これらの総合評価により60%で合格とする。

当たり前のことだが、課題やレポートで電子ファイルを提出する際、他人の電子ファイルをコピーして提出したら、カンニングと見なし不合格とする。

②④ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業の方法】

各人がPCを実際に使いながら、演習形式の授業を行う。

【授業計画】

1. ガイダンス(授業の目的・計画)
2. インターネットの活用
3. ネットワークの脅威
4. 情報セキュリティ

5. 実験データ分析 I

6. 発表用資料作成 I

7. 報告書作成 I

8. まとめ

【準備学習および事後学習のためのアドバイス】

当講義は、情報リテラシーに関しての最低限・最小限の内容の習得を目的としている。

講義中に理解が不十分であると感じた場合は、演習課題ができるようになるまでを復習をすること。

時間は特に指定しないが、1講義に対して1時間程度が目安である。

教科書・参考書等

【参考書】大学新入生のための情報リテラシー，香川大学総合情報センター編 堀幸雄・高久雅生・村井源・宮崎英一・黒田勉・寺中正人・高木智彦・大槻明・川村雅義・林敏浩・八重樫理人・長尾敦史・北條充敏・横井英人・今井慈郎，学術図書出版社，2014年，1,944円(税込)，ISBN: 978-4-7806-0389-7

【参考書】キーワードで学ぶ最新情報トピックス2020，久野靖・佐藤義弘・辰己丈夫・中野由章，日経BP社，2020年，1,430円(税込)，ISBN: 978-4-8222-9240-9

オフィスアワー

あらかじめメールや電話でアポイントを取れば、適宜対応する。

詳細は、第1回目のガイダンスで指示する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

統合認証システム(LDAP)のユーザIDとパスワードは必ず確認しておくこと。

(問合せ先: 総合情報センターまたは医学部学務課教務係)

参照ホームページ

メールアドレス

medinfo@med.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ 授業科目名	■ 科目区分	■ 時間割	■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA M(2) Information Literacy A	情報リテラシー	2Q 水4	1～ 全学共通科目
■ 講義題目	■ 水準・分野	■ DP・提供部局	■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシーA Information literacy A	B1INF	acdG	10
⑥ ■ 担当教員	■ 授業形態	⑤ ■ 単位数	■ 時間割コード
筒井 邦彦, 藤井 豊, 野口 修司, 川人 潤子 [Tsutsui Kunihiko, Fujii Yutaka, Shuji NOGUCHI, Junko KAWAHITO]	Lx	1	082402

■ DP・提供部局

acdG

■ 授業形態

Lx

■ 関連授業科目

情報リテラシーB

■ 履修推奨科目

■ 学習時間

講義、演習90分×9回(うち第1、2回は第1クォーター開始時の1、2週目)
+自習学習(準備学習30時間+事後学習30時間)

③ ■ 授業の概要

【注意事項】当科目は医学部看護学科生、臨床心理学科生の必修科目です。

【概要】本科目は、香川大学に入学する全学生が早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために1年次生対象に開講される必修科目で、講義とPCを用いた演習を組み合わせた授業です。情報リテラシーとは、コンピュータが使えるというだけでなく、その技術を利用してさまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力とそれらをモラルに則って活用する能力のことです。入学前に高校の教科「情報」などすでに情報リテラシーを身に付けている学生が少なくないですが、この授業でその内容を点検し、不足している部分を補うことによって、全学生が授業の達成目標をクリアすることを目指します。

■ 授業の目的

現在、コンピュータやネットワーク(IT技術)は、社会の基盤として活用されている。すなわち、簡単な文書作成だけでなく、いろいろな設計情報やデータの整理、報告書の作成をコンピュータで行っている。また、メールやメッセージ、Webシステムによって人とのコミュニケーションにIT技術が用いられている。そこで、IT技術の基礎的な知識や利用方法を習得することを目標とする。

① ■ 到達目標

1. 電子メールの設定、送受信ができる。
 2. インターネットや学内機器を利用する際のルールとマナーがわかっている。
 3. インターネット上には様々な質の情報があることを踏まえ、情報を適切に検索できる。
 4. 香川大学付属図書館利用のマナーを理解し、所蔵の図書・雑誌等を検索できる。
 5. 文書作成ソフトを利用し、図表を含めレイアウトされた文書を作成できる。
 6. 表計算ソフトを利用して、基本的な計算・集計とグラフの作成ができる。
 7. プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。
 8. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。
- (全て共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)、「問題解決・課題探求能力」に対応、2、8は「倫理観・社会的責任」に対応)

⑦ ■ 成績評価の方法と基準

出席・受講状況40%、提出物50%、プレゼンテーション等により、総合的に評価を行う(受講態度がひどい場合、実習室使用規定を守らない場合等は退出を命じることがある)。

②④ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

医学部マルチメディア実習室の情報機器を使用する。講義、演習後課題を提出する。

第1回 情報機器操作時の基本的、また倫理的な注意点。図書館での情報収集方法、香川大学のコンピュータ・ネットワークサービスの概要。

第2回 電子メール(学内メールの設定、転送設定、メールの仕組み等)。

- 第1、2回は第1Q(クォーター)の講義開始第1、2週水4限に行う。第3回以降は第2Qに行う。
- 第3回 Power point(1)Office概要、基本的な入力方法。
 - 第4回 Power point(2)図表の作成、応用的な入力によるスライド作成。
 - 第5回 Power point(3)Webからの情報収集による資料作成。
 - 第6回 Word(1)概要、文字入力を中心とした基本的な入力。
 - 第7回 Word(2)図の挿入、レポートの作成、案内状等の作成。
 - 第8回 Excelの概要、データの打ち込み方、グラフの作成。
 - 第9回 画像編集ソフトの使用方法。

【自学自習に関するアドバイス】まずはマルチメディア自習室や自身のPCに触れてほしい。PC、スマホの検索エンジンを利用したり、図書館PCなどで資料を検索することを積極的に行うことは、当科目で修得した技能を応用する上で大切であり、それ自体が復習となる。

また学習した内容の応用による資料の検索、Wordによるレポート作成、Excelによるデータの整理・解析、Powerpointによる発表スライドの作成・プレゼンテーション等は全て、当科目の予習・復習となる。

授業計画を見て自分の苦手な所を把握し、基本的な事柄は事前にPC操作等により予習して理解しておくこと。週を重ねるごとにそれまでに修得したこと的应用が必要となるため、わからないまま放置しないこと。

教科書・参考書等

医学部マルチメディア実習室PCはWindows10、Office2019です。
参考文献を含め本の購入の義務はありません。上記に関わる書籍等を参考にしてください。
参考文献 情報トピックス2020 日経BP社(2020年1月に出版予定と思われる)

オフィスアワー

この科目終了後、マルチメディア実習室で。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

入学時に総合情報基盤センターから配布される学生用メールアドレス、ログインパスワードが必要。毎回必ず持参のこと。マルチメディア実習室内は飲食禁である。

参照ホームページ

メールアドレス

教員の实务経験との関連

現在教員の立場で実際にPCを用いて情報収集、文書やプレゼンテーション資料の作成、表計算等を行っており、基本的な情報スキル、情報モラルを受講生とともに共有したいと考えています。また第1、2回は医学部ネットワーク管理室、図書館に勤務される実務の方からも説明があります。

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA T(1) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 水5	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシーA(Information Literacy A)	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
林 敏浩, 後藤田 中[Hayashi Toshihiro, Gotoda Naka]	Lx	1	082501

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

大学入門ゼミ、計算機入門

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

(講義+演習)90分×8回+ 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

③ ■ ■ 授業の概要

香川学に入学する学生が、早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために、1年次生対象に開講される必修科目である。情報リテラシーとは、コンピューターが使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。座学・演習を組み合わせ、パソコンを操作しながら受講する実習形式の授業である。

■ ■ 授業の目的

現在、コンピューターやネットワーク(IT技術)は、社会の基盤として活用されている。すなわち、簡単な文書作成だけでなく、いろいろな設計情報やデータの整理、報告書の作成をコンピューターで行っている。また、メールやメッセージ、Webシステムによって人とのコミュニケーションにIT技術が用いられている。そこで、IT技術の基礎的な知識や利用方法を習得することを目標とする。

① ■ ■ 到達目標

1. パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。
2. ウェブブラウザの機能を理解し、種々のネットワークサービスが活用できる。
3. 電子メールの設定、送受信ができる。
4. インターネットや学内機器を利用する際のルールとマナーがわかっている。
5. インターネット上には様々な質の情報があることを踏まえ、情報を適切に検索できる。
6. 香川大学付属図書館利用のマナーを理解し、所蔵の図書・雑誌等を検索できる。
7. 文書作成ソフトを利用し、図表を含めレイアウトされた文書を作成できる。
8. 表計算ソフトを利用して、基本的な計算・集計とグラフの作成ができる。
9. プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。
10. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。

※全ての到達目標が共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応する。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

毎回の課題10点(満点)×8回の合計に100/80を掛けて100点満点で評価し、60点以上を合格とする。期末テストは実施しない。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業の方法】

各自のノートPCを利用した演習を含む講義を行う。

【授業計画】

- 第1週: 授業ガイダンス、PC教室の使い方、香川大学web mail、各種Webサービス(図書館システムを含む)
- 第2週: 文書作成(1)(Wordの概要、書式設定の基本、フォント、文字飾り等)
- 第3週: 文書作成(2)(図等の挿入、アウトラインの設定、特殊な編集等)
- 第4週: 表計算(1)(Excelの概要、セル操作、ファイルの保存と読込)
- 第5週: 表計算(2)(Excelの関数、図の作成、データベース機能)
- 第6週: プレゼンテーション(1)(PowerPointの概要、様々なデザイン、画像の挿入)
- 第7週: プレゼンテーション(2)(アニメーション、スライドショー、配布資料の作成)
- 第8週: 情報セキュリティ、情報モラル

【自学自習に関するアドバイス】

各種ソフトウェアは「習うより慣れる」ということで習った内容は、自分のノートPCを用いて自学自習や他の科目の課題などで積極的に使ってください。また、香川大学図書館 eBookLibraryに、情報リテラシーに関する電子図書が充実しているのでそれらも積極的に活用ください。

各回において準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトなどの資料を見て不明な点などの事前調査などです。事後学習は授業から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

【教科書】

書名 「30時間アカデミック Office2019」
 著者 杉本くみ子, 大澤栄子(著)
 ISBN 978-4-407-34833-0
 出版社 実教出版(2019)
 定価 1,430円(税込み)

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー

日時: 金曜1時限目
 場所: 幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室
 不在時は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を利用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習主体の講義のため、ノートPCや周辺機器など必要機器は忘れず持参してください。また、無断欠席や演習課題の未提出がないように履修してください。

参照ホームページ

香川大学Moodle: <https://moodle.itc.kagawa-u.ac.jp/>
 [2020年度コンテンツ]→[全学共通]→[情報リテラシーA(創造工学部造形・メディアデザインコース)]

香川大学図書館 eBookLibrary: <https://w3.lib.kagawa-u.ac.jp/>
 ※アクセス後eBookLibraryのバナーをクリックすること。学内からは認証なしでアクセスできる。

メールアドレス

hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp(林), gotoda@eng.kagawa-u.ac.jp(後藤田)

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA T(2) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 水3	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシーA(information literacy A)	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
荒木 裕行[Hiroyuki ARAKI]	Lx	1	082502

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

情報リテラシーB

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

③ ■ ■ 授業の概要

香川学に入学する学生が、早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために、1年次生対象に開講される必修科目である。情報リテラシーとは、コンピューターが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。座学・演習を組み合わせ、パソコンを操作しながら受講する実習形式の授業である。

■ ■ 授業の目的

現在、コンピュータやネットワーク(IT技術)は、社会の基盤として活用されている。すなわち、簡単な文書作成だけでなく、いろいろな設計情報やデータの整理、報告書の作成をコンピュータで行っている。また、メールやメッセージ、Webシステムによって人とのコミュニケーションにIT技術が用いられている。そこで、IT技術の基礎的な知識や利用方法を習得することを目標とする。

① ■ ■ 到達目標

1. パソコンの基本的な機能を理解し、効率的に操作できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)
2. ウェブブラウザの機能を理解し、種々のネットワークサービスが活用できる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)
3. 電子メールの設定、送受信ができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)
4. インターネットや学内機器を利用する際のルールとマナーがわかっている。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)
5. インターネット上には様々な質の情報があることを踏まえ、情報を適切に検索できる。(共通教育スタンダードの「問題解決・課題探求能力」に対応)
6. 香川大学付属図書館利用のマナーを理解し、所蔵の図書・雑誌等を検索できる。(共通教育スタンダードの「問題解決・課題探求能力」に対応)
7. 文書作成ソフトを利用し、図表を含めレイアウトされた文書を作成できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)
8. 表計算ソフトを利用して、基本的な計算・集計とグラフの作成ができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)
9. プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)
10. 情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

期末試験は行わない。授業中に課せられる課題(宿題も含む)により評価する。ただし、出席状況および授業中の態度を評価に加味し、欠席や遅刻が多い場合や課題等に取り組む姿勢が芳しくない場合は減点対象とする。この結果、欠席や遅刻が重なると単位が認められなくなる場合もあるので注意すること。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

- 第1週: 授業ガイダンス、PC教室の使い方、香川大学web mail、各種Webサービス(図書館システムを含む)
- 第2週: 文書作成(1)(Wordの概要、書式設定の基本、フォント、文字飾り等)
- 第3週: 文書作成(2)(図等の挿入、アウトラインの設定、特殊な編集等)
- 第4週: 表計算(1)(Excelの概要、セル操作、ファイルの保存と読込)
- 第5週: 表計算(2)(Excelの関数、図の作成、データベース機能)

第6週: プレゼンテーション(1)(PowerPointの概要、様々なデザイン、画像の挿入)

第7週: プレゼンテーション(2)(アニメーション、スライドショー、配布資料の作成)

第8週: 情報セキュリティ、情報モラル

【授業および学習の方法】

各種ソフトウェアは「習うより慣れろ」ということで習った内容は、自分のノートPCを用いて自学自習や他の科目の課題などで積極的に使ってください。また、香川大学図書館 eBookLibraryに、情報リテラシーに関する電子図書が充実しているのでそれらも積極的に利活用してください。

【自学自習に関するアドバイス】

第1週: 身近なネットワークを利用して、ネットワーク技術について理解を深める。

第2-7週: Word、Excel、PowerPointの様々な機能を利用し、各種マテリアルを作成する。

第8週: 情報セキュリティ、情報モラルを理解する。

教科書・参考書等

購入の義務はありませんが、以下を参考書として指定します。

・キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2020(製本版)、久野靖・佐藤義弘・辰己丈夫・中野由章監修、日経BP社、2020、ISBN: 978-4-8222-9240-9、1,430円(税込)

・キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2020 e-Learning版(香川大学 Moodleを通じて利用可能です。利用方法は授業内で説明します。)

オフィスアワー

水曜日12:00~13:00(創造工学部2号館3階(北))

上記時間帯に都合がつかない場合には、電子メールで氏名、おおまかな質問内容と希望日時を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

種々の講義、実験、演習、実習をはじめ卒業研究に至るまで、本授業で得られた知識・技術は様々な局面で係わる。演習を取り入れた授業である点に留意し、欠席・遅刻することなく積極的に授業に参加することを望む。授業には、事前に指定するスペックをもつノートパソコン、AC電源アダプタ、LANケーブル、マウスを必携のこと。その他、授業に必要な解説書等も指示に応じて持参すること。

参照ホームページ

メールアドレス

araki@eng.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ 授業科目名	■ 科目区分	■ 時間割	■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA T(3) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 水4	1～ 全学共通科目
■ 講義題目	■ 水準・分野	■ DP・提供部局	■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシー Information Literacy	B1INF	acdG	10
⑥ ■ 担当教員	■ 授業形態	⑤ ■ 単位数	■ 時間割コード
八重樫 理人, 高木 智彦, 米谷 雄介 [Yaegashi Rihito, Takagi Tomohiko, Yusuke Kometani]	Lx	1	082503

■ DP・提供部局

acdG

■ 授業形態

Lx

■ 関連授業科目

■ 履修推奨科目

■ 学習時間

(講義30分 + 演習60分) × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

③ ■ 授業の概要

パーソナルコンピュータ(PC)を活用して情報を収集・発信したり、様々な文書を作成したりする方法について基本的な演習を行う。まず、各自が所有するノート型PCとWindows環境を前提に、香川大学のネットワーク環境を解説し、円滑な講義や演習を可能にする。次に、ワードプロセッサや表計算、プレゼンテーションのソフトウェアなどが利用できることを確認する。さらにWebページの作成方法について学習し、情報リテラシー能力の高度化を図る。

■ 授業の目的

現在、コンピュータやネットワークは、社会の基盤として活用されている。たとえば、データの整理や文書の作成をパーソナルコンピュータで行っているし、日常のコミュニケーションにメールやWebシステムなどが用いられている。本授業では、これらの基礎的な知識や利用方法を習得することを目標とする。

① ■ 到達目標

- (1) Webや電子メール、ファイル共有などを用いた情報交換ができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)
- (2) ワードプロセッサや表計算のソフトウェアを用いて文書を作成できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)
- (3) プレゼンテーションソフトウェアを用いて資料を作成できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)
- (4) 情報モラルやセキュリティについて説明できる。(共通教育スタンダードの「知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)

⑦ ■ 成績評価の方法と基準

情報環境に関する知識やその利用法の体得状況などについて、演習課題によって評価する。無断欠席や演習課題の未提出があれば基本的に評価されないので、注意して授業に望むこと。

②④ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業の方法】

各自のノートPCを利用した演習を含む講義を行う。

【授業計画】

- 第1回: 授業概要を理解する。そしてノートPCをネットワークに接続し、香川大学の環境に合わせて基本的な設定を行う。
- 第2回: 香川大学のインターネット環境および情報セキュリティポリシーを理解した上で、電子メールや各種サーバの基本的な利用方法について学習する。
- 第3回: ノートPCの様々な基本的操作を体験し理解する。
- 第4回: プレゼンテーションソフトウェアの基本的な使用方法を理解する。
- 第5回: 表計算ソフトウェアの基本的な使用方法を理解する。
- 第6回: ワードプロセッサソフトウェアの基本的な使用方法を理解する。

第7回: HTMLを用いた簡単なWebページを作成する。

第8回: まとめ

【自学自習に関するアドバイス】

タッチタイピングの練習をすること。以下に示すキーワードについて調べること。

第2回: 情報セキュリティポリシー、電子メール、FTP、ファイル共有

第3回: フォルダ、ファイル、パス、DOSコマンドプロンプト、エディタ

第4回: プレゼンテーションソフトウェア、図形、スライド

第5回: 表計算ソフトウェア、関数、グラフ

第6回: ワードプロセッサソフトウェア、レポート作成、文書の統合

第7回: Webサーバ、ブラウザ、HTML

教科書・参考書等

【教科書】富士通エフ・オー・エム、"情報リテラシー 総合編<改訂版> Windows 10・Office 2019対応"、FOM出版

【参考書(購入の義務はありません)】久野靖, 佐藤義弘, 辰己丈夫, 中野由章監修: キーワードで学ぶ最新情報情報トピックス2017, 日経BP社(2017) 1,296円(税込み) ISBN: 978-4-8222-92221-8

オフィスアワー

水曜日18時から20時、林町キャンパス1号館10階11012研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ノートPCやLANケーブルなど、演習に必要な機器は忘れず持参すること。無断欠席や演習課題の未提出は成績評価に赤信号となる。やむをえず欠席する場合は必ず連絡すること。

参照ホームページ

メールアドレス

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA T(4) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 水2	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシー A(information literacy A)	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
佐藤 敬子[Sato Keiko]	Lx	1	082504

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

情報リテラシーB, プログラミング

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分 × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

③ ■ ■ 授業の概要

香川大学に入学する学生が、早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために1年次生対象に開講される必修科目である。情報リテラシーとは、コンピューターが使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。座学・演習を組み合わせ、パソコンを操作しながら受講する実習形式の授業である。

■ ■ 授業の目的

パソコンの基本操作、電子メールの設定と利用方法、文書作成、データ処理や図表の作成、プレゼンテーション資料の作成といったパソコンを活用するための基本技術を習得する。また、インターネット社会におけるルールとマナー、セキュリティについて理解することで、情報の適正な選択、利用のための基礎的な技能を習得する。

① ■ ■ 到達目標

1. パソコンの構成を理解し、基本的な操作ができる。
 2. インターネットの概要を理解し、インターネットやメールへの接続と操作ができる。
 3. パソコンやインターネットを利用するうえで必要なセキュリティとマナーを理解する。
 4. インターネットを利用した情報収集方法と活用方法について理解する。
 5. Microsoft Wordを使って図表を含めたレイアウトされた文書を作成できる。
 6. Microsoft Excelを使って基本的なデータ処理と図表の作成ができる。
 7. Microsoft PowerPointを使ってプレゼンテーション資料の作成ができる。
- (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

出席確認を兼ねる小テスト及び最終課題により評価を行う。総合評価の60%以上を合格とする。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業の方法】

学生が各自所有するパソコンを用いて、座学と演習を組み合わせで行う。

【授業計画】

- 第1週: パソコンの基本知識と操作、インターネットとメールの利用、各種サービス
 第2週: Word 基本操作と文書の作成
 第3週: Excel(1) 基本操作、関数の利用、データの集計
 第4週: Excel(2) 図表作成の基礎
 第5週: Excel(3) 図表作成の応用
 第6週: WordとExcelを使ったレポートの作成

第7週: PowerPoint 基本操作とプレゼンテーション資料の作成

第8週: 情報セキュリティと情報モラル

【自学自習に関するアドバイス・復習事項】

各種ソフトウェアは「習うより慣れろ」です。学習した内容は、各自のノートPCを用いて自学自習や他の科目のレポート課題などで積極的に使ってください。また、香川大学図書館 eBookLibraryに情報リテラシーに関する電子図書が充実しているのでそれらも積極的に活用ください。

教科書・参考書等

教科書は使用せずプリントを配布する。購入の義務はないが以下を参考書として指定する。

キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版, 久野靖・佐藤義弘・辰己丈夫・中野由章監修, 日経BP社, 2019 (<https://moodle.itc.kagawa-u.ac.jp/>) (香川大学 Moodle, カテゴリ:「2019年度コンテンツ」-「その他」, コース名:「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2019 e-Learning版」)

製本版もあります。ISBN: 978-4-8222-9234-8、1,404円(税込)。

オフィスアワー

時間: 水曜日17:50~19:00, 場所: 1号館4F-14(事前にメール等で連絡のこと)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習が中心の授業となるので、各自ノートパソコン及びLANケーブルを毎回必ず持参すること。毎回出席をとる。遅刻や無断欠席は評価対象としないので注意すること。

参照ホームページ

メールアドレス

satokei@eng.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA T(5) Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 水2	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
プログラミング I Programming 1	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
須崎 嘉文, 磯田 恭佑[Suzaki Yoshifumi, Isoda Kyosuke]	Lx	1	082505

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

プログラミングⅡ(材料)11T以前対象

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)

③ ■ ■ 授業の概要

今日、コンピュータは日常生活において必要不可欠なツールとなっている。工学部の学生が所有するPCを使って、座学・演習を組み合わせた授業を行う。インターネットや電子メール等のネットワークの取り扱いとセキュリティ、情報収集及び適切な判断を行うための知識・技能の修得を目指す(DPの「知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)。さらにコンピュータアプリケーションを利用した文書作成や資料作成、プレゼンテーション技術の習得を目指す(DPの「言語運用能力」に対応)。また、表計算ソフトを用いたデータ処理、グラフ作成、数値的シミュレーションの演習を行う。

■ ■ 授業の目的

この授業ではPCの基本操作の修得と共に、インターネットや電子メール等のネットワークの仕組みと設定法、コンピュータアプリケーションを利用した文書作成や資料作成、プレゼンテーション技術の習得を目指す。また、表計算ソフトを用いたデータ処理、数値的シミュレーションの演習を行い、コンピュータを活用できる素地を養う。

① ■ ■ 到達目標

1. 文字入力やファイル操作などPCの基本操作ができる。
2. インターネットの仕組みを理解し、インターネットや電子メールの接続、操作ができる。
3. セキュリティとネチケット(ネットワークのマナー)についての知識を身につける。
4. Microsoft Wordを使って表組みや図、数式などを挿入した基本的な文書を作成できる。
5. Microsoft Excelを使ってデータ処理やグラフの作成、簡単な数値シミュレーションを行うことができる。
6. Microsoft PowerPointを使って資料作成、プレゼンテーションを行うことができる。
7. インターネットを活用した情報検索とその結果に対する適切な判断ができる。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

授業で指示する課題で評価する。期末試験は行わない。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週: 持込PCとMicrosoft Officeのセットアップ(5時間)
- 第2週: インターネットとメールのセットアップ(5時間)
- 第3週: 文書作成(1) 文字修飾、段落設定、表の挿入(5時間)
- 第4週: 文書作成(2) 図の挿入、図形描画、数式の挿入(5時間)
- 第5週: 表計算(1) Excelの基礎、関数の利用、オートフィル、相対参照と絶対参照(5時間)
- 第6週: 表計算(2) 関数のグラフ化、散布図、数値計算(5時間)
- 第7週: プレゼンテーション(1) PowerPointの基礎(5時間)
- 第8週: プレゼンテーション(2) 配布資料の作成(5時間)

【自学自習のためのアドバイス】

第1週: PCのアップデートの確認を必ず行う

第2週: メールの設定アップおよび課題を行うこと

第3週: 文書作成(1) 文字修飾、段落設定、表の挿入、全ての課題を行うこと

第4週: 文書作成(2) 図の挿入、図形描画、数式の挿入、全ての課題を行うこと

第5週: 表計算(1) Excelの基礎、関数の利用、オートフィル、相対参照と絶対参照、全ての課題を行うこと

第6週: 表計算(2) 関数のグラフ化、散布図、数値計算、全ての課題を行うこと

第7週: プレゼンテーション(1) PowerPointの基礎、全ての課題を行うこと

第8週: プレゼンテーション(2) 配布資料の作成、全ての課題を行うこと

■ ■ 教科書・参考書等

授業資料はプリントを配布する。なお、購入の義務はありませんが以下を参考書として指定します。

久野靖, 佐藤義弘, 辰己丈夫, 中野由章監修: キーワードで学ぶ最新情報情報トピックス2017, 日経BP社(2017) 1,296円(税込み) ISBN: 978-4-8222-92221-8

■ ■ オフィスアワー

水曜日12:00-13:00(居室)あるいはe-mailで受け付ける。e-mailは授業にて連絡する。

■ ■ 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

遅刻をしない、PC・LANケーブル必携、ノートを取る

■ ■ 参照ホームページ

■ ■ メールアドレス

磯田: k-isoda@eng.kagawa-u.ac.jp

須崎: suzaki@eng.kagawa-u.ac.jp

■ ■ 教員の実務経験との関連

国立研究開発法人 理化学研究所での勤務があります。実験における結果などを統計的にまとめてきた実務経験や資料作成時における情報の信頼性の確認、真偽の精査を行ってきた実務経験をもとに、情報リテラシーについて講義します。

ナンバリングコード B1INF-acdG-10-Lx1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーA A Information Literacy A	情報リテラシー	1Q 水1	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシーA	B1INF	acdG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
櫻庭 春彦, 田中 直孝[Sakuraba Haruhiko, Tanaka Naotaka]	Lx	1	082601

■ ■ DP・提供部局

acdG

■ ■ 授業形態

Lx

■ ■ 関連授業科目

情報リテラシーB

■ ■ 履修推奨科目

■ ■ 学習時間

授業90分×8回＋自学自習(準備学習12時間＋事後学習16時間)

③ ■ ■ 授業の概要

香川大学に入学する学生が、早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために、1年次生対象に開講される必修科目である。情報リテラシーとは、コンピューターが使えるというだけでなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことである。座学・演習を組み合わせ、農学部学生必携のノート型パーソナルコンピュータ(ノートPC)などを操作しながら受講する実習形式の授業である。

■ ■ 授業の目的

現在、コンピューターやネットワーク(IT技術)は、社会の基盤として活用されている。すなわち、簡単な文書作成だけでなく、様々な専門的な情報やデータの整理、報告書の作成をコンピューターで行っている。また、メールやメッセージ、Webシステムによって人とのコミュニケーションにIT技術が用いられている。そこで、IT技術の基礎的な知識や利用方法を習得することを目標とする。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応)。(DPの「言語運用能力および問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)

① ■ ■ 到達目標

- 1 ネットワークの脅威に対する基本的な対策を実行できる。
- 2 ルールとマナーに従い、インターネットや大学の共同利用パソコンを利用できる。
- 3 図書館利用のマナーに従い、図書館所蔵の図書・雑誌を検索できる。
- 4 パソコンを効率的に操作できる。
- 5 ウェブブラウザで各種のネットワークサービスを利用できる。
- 6 様々なインターネット上の情報を検索できる。
- 7 メールの設定と送受信ができる。
- 8 ワードプロソフトを利用して、図や表を含めてレイアウトされた文書を作成できる。
- 9 表計算ソフトを利用して、基本的な集計とグラフの作成ができる。
- 10 プレゼンテーションソフトを利用して、スライドや配布資料を作成できる。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

毎回のレポート課題による総合判定

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- (第1週) 情報セキュリティとモラル及び図書館の利用法・情報検索・文献検索(事後学習2時間)
- (第2週) 電子メールの利用法(事後学習2時間)
- (第3週) Wordを使った文書作成1(準備学習2時間＋事後学習2時間)
- (第4週) Wordを使った文書作成2(準備学習2時間＋事後学習2時間)

- (第5週) PowerPointを使ったプレゼンテーション1(準備学習2時間+事後学習2時間)
- (第6週) PowerPointを使ったプレゼンテーション2(準備学習2時間+事後学習2時間)
- (第7週) Excelを使った表計算とグラフ作成1(準備学習2時間+事後学習2時間)
- (第8週) Excelを使った表計算とグラフ作成2(準備学習2時間+事後学習2時間)

【自学自習のためのアドバイス】

各自持参したノートPCで実習しながらの授業を行う。毎回授業に出席して良く聞き、学んだことを勉強や生活で積極的に使うこと。

教科書・参考書等

教科書: 30時間でアカデミック Office2019, 実教出版, 本体1400円

参考書: 購入の義務はありませんが以下を参考書として指定します。

- 1) 大学新入生のための情報リテラシー, 学術図書出版 (2014年), 本体1800円
- 2) 情報トピックス2019, ISBN: 978-4822292348, 定価: 1,200円, 日経BP社

オフィスアワー

水曜日17:00-18:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. (第1週)～(第8週)の授業では各自が持参したPCを使用するので、指定したスペックを満たすパソコンを用意しておくこと。
2. (第2週)の授業は2クラスに分かれて実習を行う。(第3週)～(第8週)の授業は3クラスに分かれて実習を行う。クラスによっては学習する順序が上記とは異なる(例: Excel→Word→PowerPoint等の順序になるクラスもある)。掲示板を必ず確認して下さい。
3. 教科書を使った授業(第3週～第8週)では、授業内容を次週までに復習しておくこと。

参照ホームページ

メールアドレス

櫻庭 sakuraba@ag.kagawa-u.ac.jp

田中 ntanaka@ag.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

(第3週)～(第8週)の授業は講師がe-とびあ・かがわでの実務経験をもとにExcel・Word・PowerPointの実習を行います。

ナンバリングコード B1INF-axxG-10-Le1 科目ナンバリングについて

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
情報リテラシーB Information Literacy B	情報リテラシー	2Q 集中	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
情報リテラシーB(Information Literacy B)	B1INF	axxG	10
■ ■ ⑥ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ ⑤ 単位数	■ ■ 時間割コード
林 敏浩, 藤澤 修平 [Hayashi Toshihiro, Shuhei FUJISAWA]	Le	1	083001

■ ■ DP・提供部局

axxG

■ ■ 授業形態

Le

■ ■ 関連授業科目

情報リテラシーA

■ ■ 履修推奨科目

情報リテラシーA

■ ■ 学習時間

授業(e-Learning)90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)

③ ■ ■ 授業の概要

Society 5.0で実現する社会で、論理的思考能力や規範的判断力に基づき柔軟に対応できる人材育成が急がれている。このような社会要請に基づき、香川大学に入学した学生が文系理系を問わず初年次に身につけるべき数理・データサイエンスの基礎を学習するために、1年次生対象に開講される必修科目であり、e-Learningで提供される授業である。

■ ■ 授業の目的

本授業の目的は、単にコンピュータなどの情報機器の操作ができるということにとどまらず、情報科学や情報工学の観点から、文系理系の専門分野に関わらず身につけるべき数理・データサイエンスの基礎を理解する。これによりさらに高度に情報機器を取り扱う素養を身につける。

① ■ ■ 到達目標

1. 数理・データサイエンスの必要性を説明できる
2. 地域を含む実社会での数理・データサイエンスの事例を例示できる
3. どのような思考方法で数理・データサイエンスを扱うか説明できる
4. 代表的な数理・データサイエンスの技術とその利点・欠点を概説できる

※全ての到達目標が共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応する。

⑦ ■ ■ 成績評価の方法と基準

授業中に課せられる課題を全て提出して受理されれば単位認定される。秀優良可(SABC)による評価は行わないので注意されたい。期末試験は行わない。

②④ ■ ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

- 第1週: 履修ガイダンス ～情報リテラシーBで何を学ぶか～
 第2週: 数理・データサイエンスを活用した地域活性
 第3週: データサイエンスとは
 第4週: 実社会のデータサイエンスの事例
 第5週: データを扱う① ～データサイエンスを始める考え方、データの確認と関数の使い方～
 第6週: データを扱う② ～回帰分析と統計的仮説検定～
 第7週: 機械学習① ～機械学習の概要とクラウドサービス～
 第8週: 機械学習② ～回帰とクラスターリング～

※今後、授業計画(各回の名称など)の一部が変更になる可能性があります。もし、変更になった場合はLMSで案内をしますのでご注意ください。

【授業および学習の方法】

e-Learningによる非同期型授業として実施します。本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。受講はインターネットに接続できるパソコンでLMS(Learning Management System)にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になります。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。

e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。

各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。

【自学自習のためのアドバイス】

各回において、e-Learningコンテンツ視聴や課題対応以外に、準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトを見て不明な点などの事前調査などです。事後学習はコンテンツ視聴などの学習から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー

時間: 金曜日1時限目

場所: 幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

備考: 不在時あるいは対面が困難な場合は電子メール(hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp)を活用されたい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

2020年度から開始する新しい科目です。このため、上級生等から助言を得るのが難しいので不明な点があれば、担当教員にメールで速やかに連絡ください。

参照ホームページ

教員Webページ: <http://www.eng.kagawa-u.ac.jp/~hayashi/>

メールアドレス

hayashi@eng.kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

申請様式③

令和2年度のカリキュラムマップ等

【教育学部】

【法学部】

【経済学部】

【医学部】

【創造工学部】

【農学部】

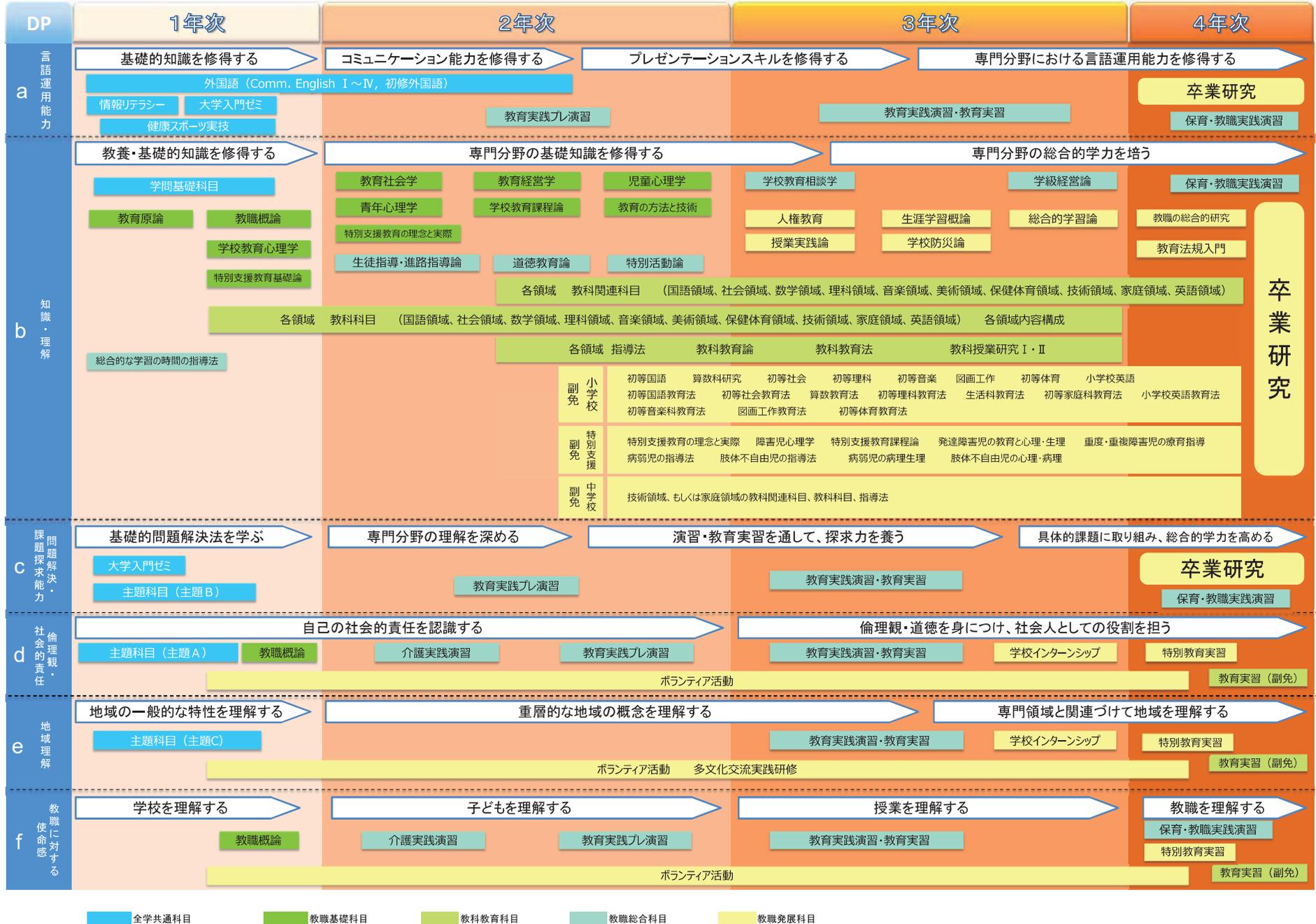
DP	1年次	2年次	3年次	4年次
a 言語運用能力	基礎的知識を修得する 外国語 (Comm. English I~IV, 初修外国語) 情報リテラシー 大学入門ゼミ 健康スポーツ実技	コミュニケーション能力を修得する 保育実習指導 I・II 保育実習 IA・IB・II	プレゼンテーションスキルを修得する 教育実践演習・教育実習	専門分野における言語運用能力を修得する 卒業研究 保育・教職実践演習
	教養・基礎的知識を修得する 学問基礎科目 教職概論 教育原論 学校教育心理学 特別支援教育基礎論 生徒指導・進路指導論 総合的な学習の時間の指導法 初等音楽 図画工作 初等体育	専門分野の基礎知識を修得する 児童心理学 教育社会学 教育の方法と技術 子ども家庭福祉論 子ども家庭支援論 養護原理 教育経営学 児童文化 乳児保育 I 初等国語 道徳教育論 幼児図画工作	専門分野の基礎知識を修得する 教育社会学 子ども家庭福祉論 子ども家庭支援論 乳幼児心理学 生涯発達心理学 人権教育 乳児保育 II 算数科研究 生活科研究 乳幼児理解の理論・方法 生活科研究 保育内容の指導法(身体表現)	専門分野の総合的学力を培う 養護内容 小児発達論 発達小児科学 初等音楽科教育法 初等国語教育法 初等社会科教育法 学校教育課程論 生活科授業研究 学校教育相談学 幼児体育 保育内容の指導法(環境) 保育内容の指導法(言葉) 保育内容の指導法(幼児音楽)
b 知識・理解				小児栄養演習 障害幼児の保育 幼児教育研究法 I 幼児教育研究法 II 子ども家庭支援の心理学 学級経営論 教職研究 I 卒業研究
				卒業研究
c 課題解決・問題探求能力	基礎的問題解決法を学ぶ 大学入門ゼミ 主題科目 (主題B)	専門分野の理解を深める 初等プログラミング教育法 保育実習指導 I・II 保育実習 IA・IB・II	演習・教育実習を通して、探求力を養う 教育実践演習・教育実習	具体的課題に取り組み、総合的学力を高める 卒業研究 保育・教職実践演習
d 社会的責任・倫理観	自己の社会的責任を認識する 主題科目 (主題A) 教職概論	自己の社会的責任を認識する 保育実習指導 I・II 保育実習 IA・IB・II	倫理観・道徳を身につけ、社会人としての役割を担う 学校インターンシップ 教育実践演習・教育実習	倫理観・道徳を身につけ、社会人としての役割を担う 教育実習 (副免)
e 地域理解	地域の一般的な特性を理解する 主題科目 (主題C)	重層的な地域の概念を理解する ボランティア活動	専門領域と関連づけて地域を理解する 学校インターンシップ 教育実践演習・教育実習	専門領域と関連づけて地域を理解する 教育実習 (副免)
f 教職に対する使命感	学校を理解する 教職概論	子どもを理解する 保育実習指導 I・II 保育実習 IA・IB・II	授業を理解する 教育実践演習・教育実習	教職を理解する 保育・教職実践演習 教育実習 (副免)

卒業研究

全学共通科目
教職基礎科目
教科教育科目
教職総合科目
教職発展科目

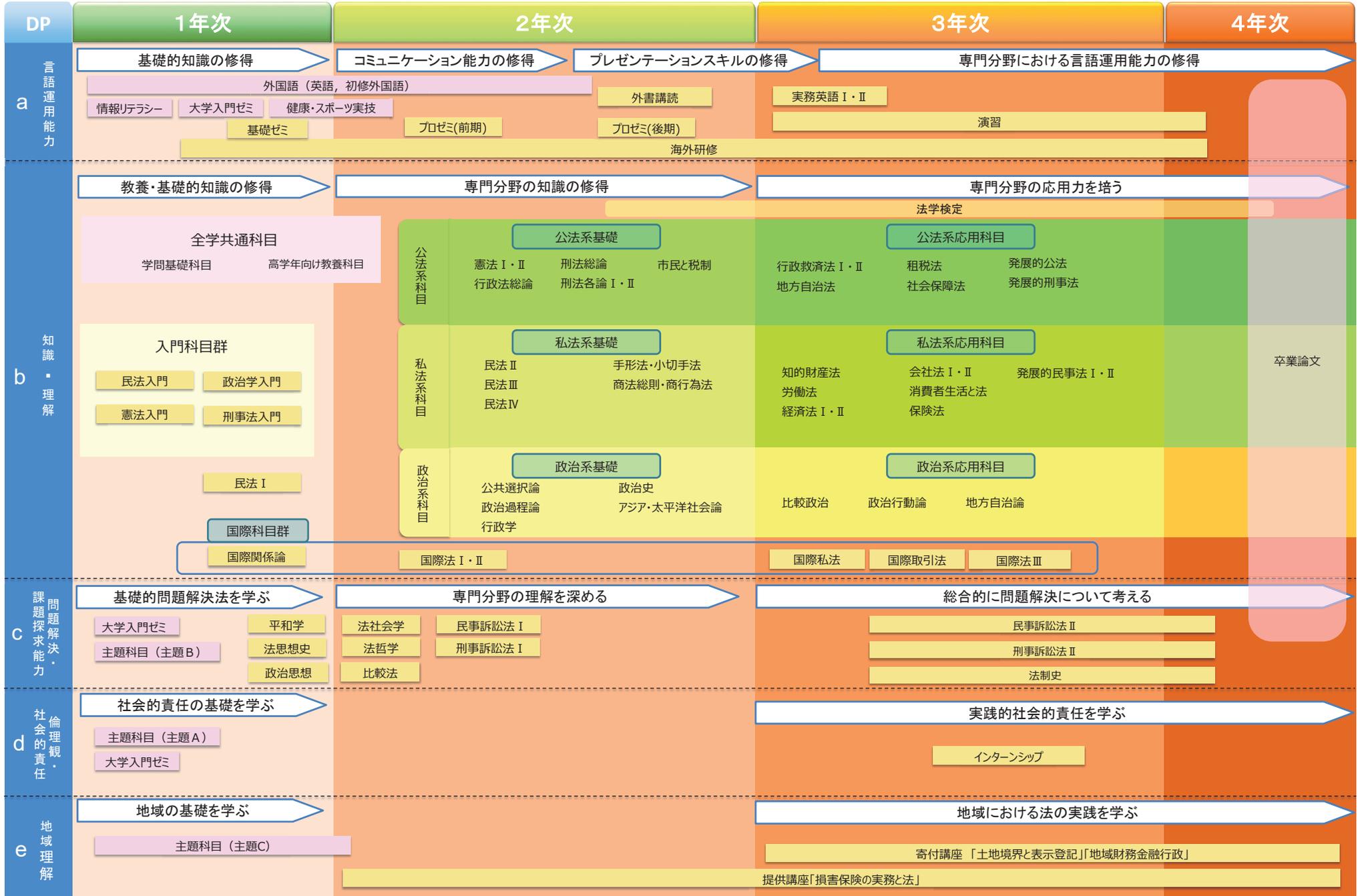
DP	1年次	2年次	3年次	4年次
a 言語運用能力	基礎的知識を修得する 外国語 (Comm. English I～IV, 初修外国語) 情報レジャー 大学入門ゼミ 健康スポーツ実技	コミュニケーション能力を修得する 教育実践プレ演習	プレゼンテーションスキルを修得する 教育実践演習・教育実習	専門分野における言語運用能力を修得する 卒業研究 保育・教職実践演習
	教養・基礎的知識を修得する 学問基礎科目 教育原論 教職概論 初等音楽 学校教育心理学 初等体育 特別支援教育基礎論 図画工作 総合的な学習の時間の指導法	専門分野の基礎知識を修得する 教育社会学 教育経営学 児童心理学 青年心理学 学校教育課程論 教育の方法と技術 障害児心理学 初等授業研究 初等国語 初等社会 算数科研究 初等理科 生活科研究 初等家庭 初等音楽科教育法 図画工作教育法 初等理科教育法 初等体育教育法 生活科教育法 初等家庭科教育法 生徒指導・進路指導論 道徳教育論 特別活動論	専門分野の総合的学力を培う 初等国語教育法 初等社会科教育法 算数教育法 学校教育相談学 学級経営論 生涯学習概論 生活科授業研究 総合的学習論 学校防災論 授業実践論 人権教育 小学校英語教育法 小学校英語	卒業研究 保育・教職実践演習 教職研究 I 教職研究 II 卒業研究
b 知識・理解		教育領域科目 教育学演習ⅠA・ⅠB・教育学チュートリアルⅠ他 教育課題探究分野 心理領域科目 心理学実験Ⅰ・Ⅱ 心理検査Ⅰ・Ⅱ 他 生活・総合領域科目 総合教育基礎演習 他	教育学演習ⅡA・ⅡB・教育学チュートリアルⅡ 他 教育心理学演習Ⅰ・Ⅱ 教育心理学実験Ⅰ・Ⅱ 他 総合教育実践研究 総合教育演習 他	教育学演習ⅢA・ⅢB 総合教育特別演習Ⅰ・Ⅱ
c 課題解決能力・問題探求能力	基礎的問題解決法を学ぶ 大学入門ゼミ 主題科目 (主題B)	専門分野の理解を深める 初等プログラミング教育 教育実践プレ演習 初等授業研究	演習・教育実習を通して、探求力を養う 教育実践演習・教育実習	具体的課題に取り組み、総合的学力を高める 卒業研究 保育・教職実践演習
d 倫理観・社会的責任	自己の社会的責任を認識する 主題科目 (主題A) 教職概論	介護実践演習 教育実践プレ演習	倫理観・道徳を身につけ、社会人としての役割を担う 教育実践演習・教育実習 学校インターンシップ 特別教育実習	教育実習 (副免)
e 地域理解	地域の一般的な特性を理解する 主題科目 (主題C)	重層的な地域の概念を理解する ボランティア活動 多文化交流実践研修	専門領域と関連づけて地域を理解する 教育実践演習・教育実習 学校インターンシップ 特別教育実習	教育実習 (副免)
f 教職に対する使命感	学校を理解する 教職概論	子どもを理解する 介護実践演習 教育実践プレ演習	授業を理解する 教育実践演習・教育実習	教職を理解する 保育・教職実践演習 特別教育実習 教育実習 (副免)

全学共通科目
教職基礎科目
教科教育科目
教職総合科目
教職発展科目



■ 全学共通科目
 ■ 教職基礎科目
 ■ 教科教育科目
 ■ 教職総合科目
 ■ 教職発展科目

法学部カリキュラムマップ



：全学共通科目

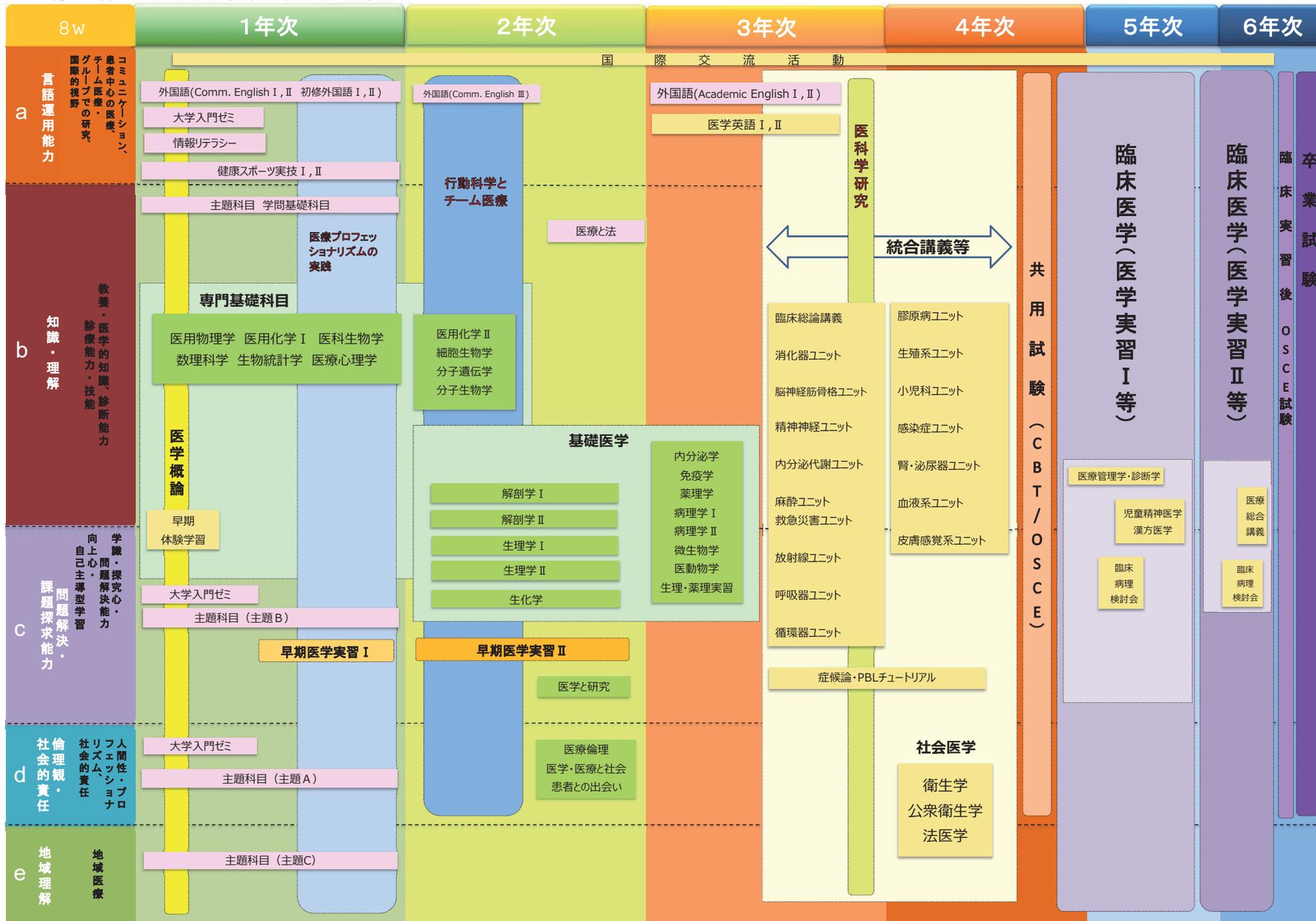
その他：学部開設科目

経済学部経済学科カリキュラムマップ

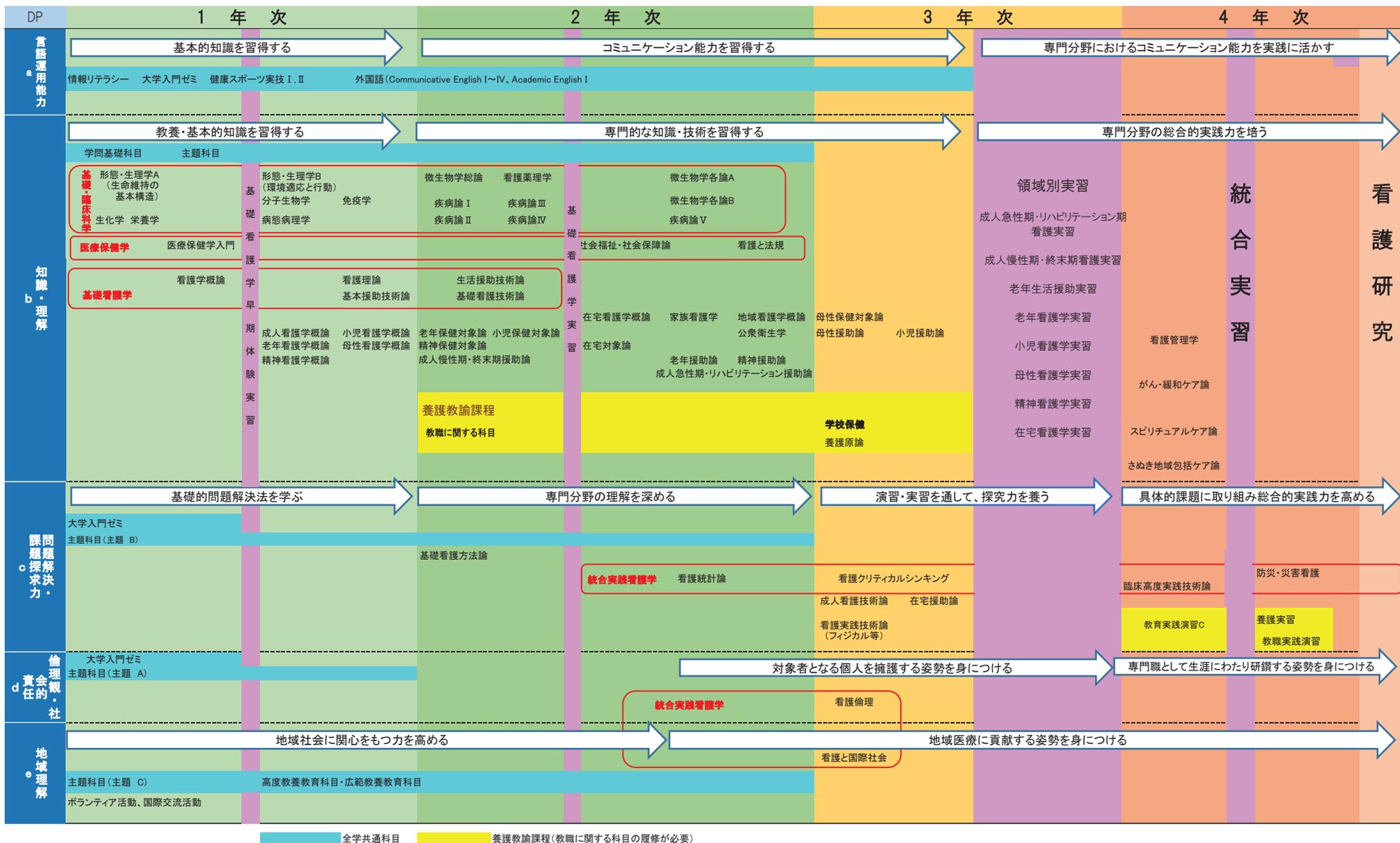
DP	1年次	2年次	3年次	4年次	
a 言語運用能力	基礎的知識の修得 外国語 (Communicative English I～IV, 初修外国語) 情報リテラシー 大学入門ゼミ 健康・スポーツ実技	コミュニケーション能力の修得 プロゼミナール	プレゼンテーションスキルの修得 演習 ビジネス英語I ビジネス英語II	専門分野における言語運用能力の修得	
	(特) 海外研修 (アメリカ・ドイツ・フランス・中国・台湾・韓国)				
b 知識・理解	全学共通科目 学問基礎科目 高度教養教育科目・広範教養教育科目 学部基礎科目 【経済系】 経済数学入門 経済学入門 【経営系】 簿記入門 原価会計論 現代企業論 経営管理論 【統計・調査系】 統計学入門 統計学 社会調査法 地域調査法 学部専門科目 【観光・地域振興】 観光学概論 【グローバル社会経済】 グローバル社会概論	学部基礎科目 【経済学系】 ミクロ経済学 I マクロ経済学 I ミクロ経済学 II マクロ経済学 II 【経営系】 経営戦略論 マーケティング論A	学部専門科目 【経済・政策分析】 政治経済学 I 計量経済学 I 経済政策 社会政策A 【会計・ファイナンス】 会計学総論 金融論 I リスクと保険 財政学A 【経営・イノベーション】 企業倫理 人的資源管理論A 経営組織論 流通システム論A 【観光・地域振興】 観光産業論 地域活性化論 まちづくり論 【グローバル社会経済】 アジア経済論 アメリカ経済論 ヨーロッパ経済論	コース概説科目 【経済・政策分析コース】 経済学 政治経済学 II 計量経済学 II 財政学B 日本社会経済史 金融論 II 【会計・ファイナンスコース】 管理会計論 調査データ分析 I 財政学B 金融論 II 財務会計論A 【経営・イノベーションコース】 経営学 イノベーション論 マーケティング論B 環境システム論 商品システム論 調査データ分析 I 管理会計論 グローバル経営論 【観光・地域振興コース】 観光経済学 観光地理学 マーケティング論B 環境システム論 エコリズム論 地域研究論 地域活性化プロジェクト I 【グローバル社会経済コース】 文化人類学 アジア文化論 比較近代化論 ヨーロッパ社会論 日本社会経済史 グローバル経営論 外国語演習 I	演習 社会政策B 上級ミクロ経済学 上級マクロ経済学 経済統計 公共経済学 地域経済学 国際経済学A 国際経済学B 福祉経済論 金融政策 I 金融政策 II 株式会社会計 財務会計論B 社会政策B 監査論 原価計算論 コスト・マネジメント論 保険システム論 金融政策 I 金融政策 II 中小企業経営論 調査データ分析 II 経営財務論 経営史 資源エネルギー論 人的資源管理論B 中小企業経営論 グローバル・マーケティング論 サービス・マーケティング論 流通システム論B 調査データ分析 II 商品実験 観光政策論 国際観光論 サービス・マーケティング論 地域活性化プロジェクト II 公共経済学 地域経済学 国際社会学 異文化間コミュニケーション論 アジア社会論 アメリカ社会文化論 ヨーロッパ文化論 国際経済学A 国際経済学B グローバル・マーケティング論 外国語演習 II
	教養・基礎的知識の修得		専門分野の基礎知識の修得		専門分野の総合的学力を培う 個別演習 卒業論文
c 課題探求能力	基礎的問題解決法を学ぶ 大学入門ゼミ 主題科目 (主題B)	専門分野の理解を深める プロゼミナール		演習を通して、探求能力を養う 演習	
	具体的課題に取り組み、総合的学力を高める				
d 倫理観・社会的責任	市民としての責任ある行動を理解する 主題科目 (主題A) 大学入門ゼミ		社会において自己が果たすべき役割や社会的責任を自覚する 現代経済社会事情 インターンシップ		
	地域社会の現状と課題に関心を持つ				
e 地域理解	地域社会の現状と課題に関心を持つ 主題科目 (主題C)	地域の課題を探求する・国際的な視野を身に付ける 現代経済社会事情 (特) 海外研修 (アメリカ・ドイツ・フランス・中国・台湾・韓国) 地域活性化プロジェクト I・II・III (特) 地域インターンシップ			

全学共通科目
学部開設科目
学部開設科目(必修)

医学部医学教科カリキュラムマップ（令和2年度入学用）



全学共通科目



全学共通科目
養護教諭課程(教職に関する科目の履修が必要)

創造工学部 創造工学科(造形・メディアデザインコース)カリキュラムマップ

DP	1年次				2年次				3年次				4年次			
a 言語運用能力	基礎的言語運用能力の修得								専門的言語運用能力の修得							
	外国語 (Communicative English I ~ IV)								卒業研究・卒業制作							
b 知識・理解	外国語 (初修外国語)				外国語 (初修外国語)				技術英語							
	健康スポーツ実技				健康スポーツ実技				国際コミュニケーション II							
	大学入門ゼミ				プログラミング				海外工学実務 I, II							
	情報リテラシー															
	学問基礎科目				学問基礎科目				学問基礎科目				卒業研究・卒業制作			
	主題科目 (主題B)		主題科目 (主題)		主題科目 (主題B)		主題科目 (主題)		主題科目 (主題)		主題科目 (主題)		サービス工学		人工知能	
	数学C		数学D		微分・積分		線形代数		確率・統計		ベクトル解析		情報数学		製品材料学	
	基礎数学演習		物理学A		物理学B		物理学P		基礎化学演習		計算機入門		線形計画法		非線形計画法	
	物理学P		基礎物理学演習		物理学B		物理学P		基礎化学演習		計算機入門		線形計画法		非線形計画法	
	基礎物理学演習															
c 課題解決能力	教養・自然科学の知識の修得								専門分野の知識の修得							
	デザイン思考関連知識								多角的知識・多角的思考能力							
	平面表現基礎演習				地域とアート				色彩学				科学・技術史			
	立体表現基礎演習A				革新デザイン史				立体表現演習 I A				ビジネスモデル概論			
	立体表現基礎演習C				立体表現基礎演習B				プロダクト造形演習				立体表現演習 IIA			
					デジタルグラフィックス演習				CAD I				ヒューマンインタフェース I			
					論理回路				CAD II				ヒューマンインタフェース II			
									デザイン手法論 I				デザイン手法論 II			
									映像・画像・音声処理技術概論				文化と情報メディア I			
									工芸理論				文化と情報メディア II			
d 倫理的責任	課題探求基礎能力								専門分野の問題解決力・デザイン思考能力・実践力							
	デザイン思考能力の基礎								専門分野のリスクマネジメント能力							
	チームワーク演習				デザイン概論				インタラクティブデザイン				工学実務			
	チームワーク演習				チームワーク演習				デザイン思考演習				概念展開論			
	チームワーク演習				チームワーク演習				マルチメディアクリエイティブ入門				デザインとリスク			
	チームワーク演習				チームワーク演習				Webデザイン				概念展開論演習			
	チームワーク演習				チームワーク演習				生活のデザイン				プロダクトデザイン			
									伝統を生かしたデザイン				プロダクトデザイン演習			
									コミュニケーションデザイン演習 I				プロダクトデザイン演習			
									リスクマネジメント				イノベーション・エコシステム形成論			
e 地域理解	リスクマネジメント能力の基礎								専門分野のリスクマネジメント能力							
	ロジカル思考演習				ロジカル思考演習				ロジカル思考演習				工業と法			
	リスクマネジメント概論				自然災害科学				レジリエンス科学				産業財産権			
	リスクコミュニケーション入門								情報セキュリティ概論				創造工学倫理			
									リスクマネジメント				著作権			
													創造工学倫理			
													著作権			
													創造工学倫理			
													著作権			
													著作権			
全学共通科目								学部開設科目								

創造工学部 創造工学科(防災・危機管理コース)カリキュラムマップ

DP	1年次				2年次				3年次				4年次						
a 言語運用能力	基礎的言語運用能力の修得								専門的言語運用能力の修得										
	外国語 (Communicative English I ~ IV)								対人コミュニケーション										
b 知識・理解	教養・自然科学の知識の修得				学問基礎科目				専門分野の知識の修得				卒業研究						
	外国語 (初修外国語) 健康スポーツ実技 大学入門ゼミ 情報リテラシー				外国語 (初修外国語) 健康スポーツ実技 プログラミング 中級プログラミング				異文化コミュニケーション 国際コミュニケーション I フリー解析基礎 ビッグデータ解析 地盤災害科学 防災情報科学 情報理論 河川環境マネジメント データ構造とアルゴリズム データベース ヒューマンインタフェース I ソフトウェア工学 土質力学 II 構造力学 II 水理学 I 構造・土質力学演習 II 水環境マネジメント演習				技術英語 国際コミュニケーション II 海外工学実務 I, II				卒業研究		
c 課題解決能力	課題探求基礎能力								専門分野の問題解決力・デザイン思考能力・実践力										
	防災危機管理概論 災害史 地域とアート 革新デザイン史 マルチメディアクリエイティブ入門 Web入門 レジリエンス科学 情報セキュリティ概論								人間工学基礎 感性工学 科学・技術史 デザインの潮流 ビジネスモデル概論										
d 倫理的責任	デザイン思考関連知識								多角的知識・多角的思考能力										
	デザイン概論 チームワーキング演習 デザイン思考演習 インタラクションデザイン Webデザイン 構造・土質力学演習 I								海外工学実務 I, II Webシステム開発 空間情報解析学演習 信頼性工学演習 工学実務 危機管理の実務										
e 地域理解	リスクマネジメント能力の基礎								専門分野のリスクマネジメント能力										
	ロジカル思考演習 ロジカル思考演習 リスクマネジメント概論 自然災害科学 リスクコミュニケーション入門								レジリエンスデザイン 被害想定と防災計画 防災ボランティア実習 災害行動と被災者支援										
e 地域理解	デザイン思考能力の基礎				卒業研究				卒業研究				卒業研究						
	デザイン概論 チームワーキング演習 デザイン思考演習 インタラクションデザイン Webデザイン 構造・土質力学演習 I				産学協創工学 復旧・復興デザイン 防災危機管理セミナー				産学協創工学 復旧・復興デザイン 防災危機管理セミナー				産学協創工学 復旧・復興デザイン 防災危機管理セミナー						
e 地域理解	卒業研究								卒業研究										
	産学協創工学 復旧・復興デザイン 防災危機管理セミナー								産学協創工学 復旧・復興デザイン 防災危機管理セミナー										

全学共通科目 学部開設科目

創造工学部 創造工学科(情報システム・セキュリティコース)カリキュラムマップ

DP	1年次	2年次	3年次	4年次	
a 言語運用能力	基礎的言語運用能力の修得		専門的言語運用能力の修得		
	外国語 (Communicative English I ~ IV)		卒業研究		
b 知識・理解	外国語 (初修外国語)	外国語 (初修外国語)	対人コミュニケーション	卒業研究	
	健康スポーツ実技	健康スポーツ実技	異文化コミュニケーション		
	大学入門ゼミ		国際コミュニケーション I		
	情報リテラシー	プログラミング			
	学問基礎科目	学問基礎科目	学問基礎科目		専門分野の知識の修得
	主題科目 (主題 B)	主題科目 (主題 B)	主題科目 (主題 B)		卒業研究
	数学 C	微分・積分	確率・統計		コンピュータ
	数学 D	線形代数	ベクトル解析		サービス工学
	基礎数学演習				数理シミュレーション
	物理学 A	物理学 B			人工知能
物理学 P	物理学 P				
c 問題解決能力	専門分野の基礎知識		専門分野のリスクマネジメント知識		
	情報システム・セキュリティ概論	情報システム工学	計算機入門	情報セキュリティ I	
			論理回路	情報セキュリティ II	
			線形計画法	ソフトウェアリスク管理	
			非線形計画法	プロジェクトリスク管理	
			情報数学		
			インターネット I		
			オペレーティング・システム		
			デザイン思考関連知識	専門分野のデザイン思考知識	
			地域とアート	ヒューマンインタフェース I	
d 社会的責任	課題探求基礎能力		専門分野の問題解決力・デザイン思考能力・実践力		
	主題科目 (主題 B)	主題科目 (主題 B)	主題科目 (主題 B)	卒業研究	
			中級プログラミング	Webシステム開発	
				オブジェクト指向言語演習	
				ソフトウェアモデリング演習	
				情報システム・セキュリティ実験 I	
				信頼性工学演習	
				工学実務	
				デザインの潮流	
				産学協創工学	
e 地域理解	デザイン思考能力の基礎		専門分野のリスクマネジメント能力		
	デザイン概論	Webデザイン	デザイン思考演習	レジリエンスデザイン	
	チームワーク演習	インタラクションデザイン	人間工学基礎	工業と法	
		マルチメディアクリエイティブ入門	感性工学	産業財産権	
				情報セキュリティ演習	
				情報システムリスクマネジメント演習	
				創造工学倫理	
				情報関連法規	
				著作権	
				工学実務	
			産学協創工学		

全学共通科目 学部開設科目

創造工学部 創造工学科(情報通信コース)カリキュラムマップ

DP	1年次		2年次				3年次			4年次		
a 言語運用能力	基礎的言語運用能力の修得						専門的言語運用能力の修得					
	外国語 (Communicative English I ~ IV)											
b 知識・理解	外国語 (初修外国語)		外国語 (初修外国語)		対人コミュニケーション		異文化コミュニケーション		技術英語		卒業研究	
	健康スポーツ実技		健康スポーツ実技				国際コミュニケーション I		国際コミュニケーション II			
	大学入門ゼミ		プログラミング						海外工学実務 I, II			
	情報リテラシー											
	教養・自然科学の知識の修得						専門分野の知識の修得					
	学問基礎科目		学問基礎科目		学問基礎科目		学問基礎科目					卒業研究
	主題科目 (主題 B)		主題科目 (主題 B)		主題科目 (主題 B)		主題科目 (主題 B)		主題科目 (主題 B)			
	数学 C		微分・積分		確率・統計		情報理論		情報セキュリティ I			
	数学 D		線形代数		ベクトル解析		インターネット II		ヒューマンインタフェース II			
	基礎数学演習		物理学 B		グラフ理論		ヒューマンインタフェース I		信頼性工学			
数理演習		物理学 P		情報数学		ビッグデータ解析		数値解析				
物理学 A		論理回路		インターネット I		センシング I		電気回路 II				
物理学 P		計算機入門		線形計画法		電磁気学 I		電磁気学 II				
				非線形計画法		電磁気学演習 I		電気電子計測				
				情報通信概論		電子回路 I		電子回路 II				
				電気回路 I		信号解析		センシング II				
				電気回路演習 I				デジタル信号処理				
								電気通信法規				
デザイン思考関連知識						多角的知識・多角的思考能力						
地域とアート		革新デザイン史		色彩学		地域企業ニーズ概論		科学・技術史		資源・エネルギー論		
										環境政策		
										ビジネスモデル概論		
c 課題解決能力	課題探求基礎能力						専門分野の問題解決力・デザイン思考能力・実践力					
	主題科目 (主題 B)		主題科目 (主題 B)		主題科目 (主題 B)		主題科目 (主題 B)		主題科目 (主題 B)		卒業研究	
					中級プログラミング				情報通信実験 I			
	デザイン思考能力の基礎						情報通信実験 II					
	デザイン概論		デザイン思考演習		デザイン思考演習		情報通信演習		工学実務			
チームワーク演習		チームワーク演習		チームワーク演習		チームワーク演習		情報通信デザイン演習				
				インタラクションデザイン		マルチメディア/ウェブレイアウト入門		人間工学基礎		デザインの潮流		
						Web入門		感性工学		産学協創工学		
リスクマネジメント能力の基礎						専門分野のリスクマネジメント能力						
ロジカル思考演習		ロジカル思考演習		ロジカル思考演習		ロジカル思考演習		情報セキュリティ概論		卒業研究		
リスクマネジメント概論		自然災害科学		レジリエンス科学		情報セキュリティ概論		工業と法				
リスクコミュニケーション入門								産業財産権				
						レジリエンスデザイン						
								情報通信リスクマネジメント演習				
d 社会的責任	主題科目 (主題 A)		主題科目 (主題 A)		主題科目 (主題 A)		主題科目 (主題 A)		主題科目 (主題 A)		創造工学倫理	
e 地域理解	主題科目 (主題 C)		主題科目 (主題 C)		主題科目 (主題 C)		主題科目 (主題 C)		主題科目 (主題 C)		産学協創工学	
			地域とアート						工学実務			
全学共通科目		学部開設科目										

創造工学部 創造工学科(機械システムコース)カリキュラムマップ

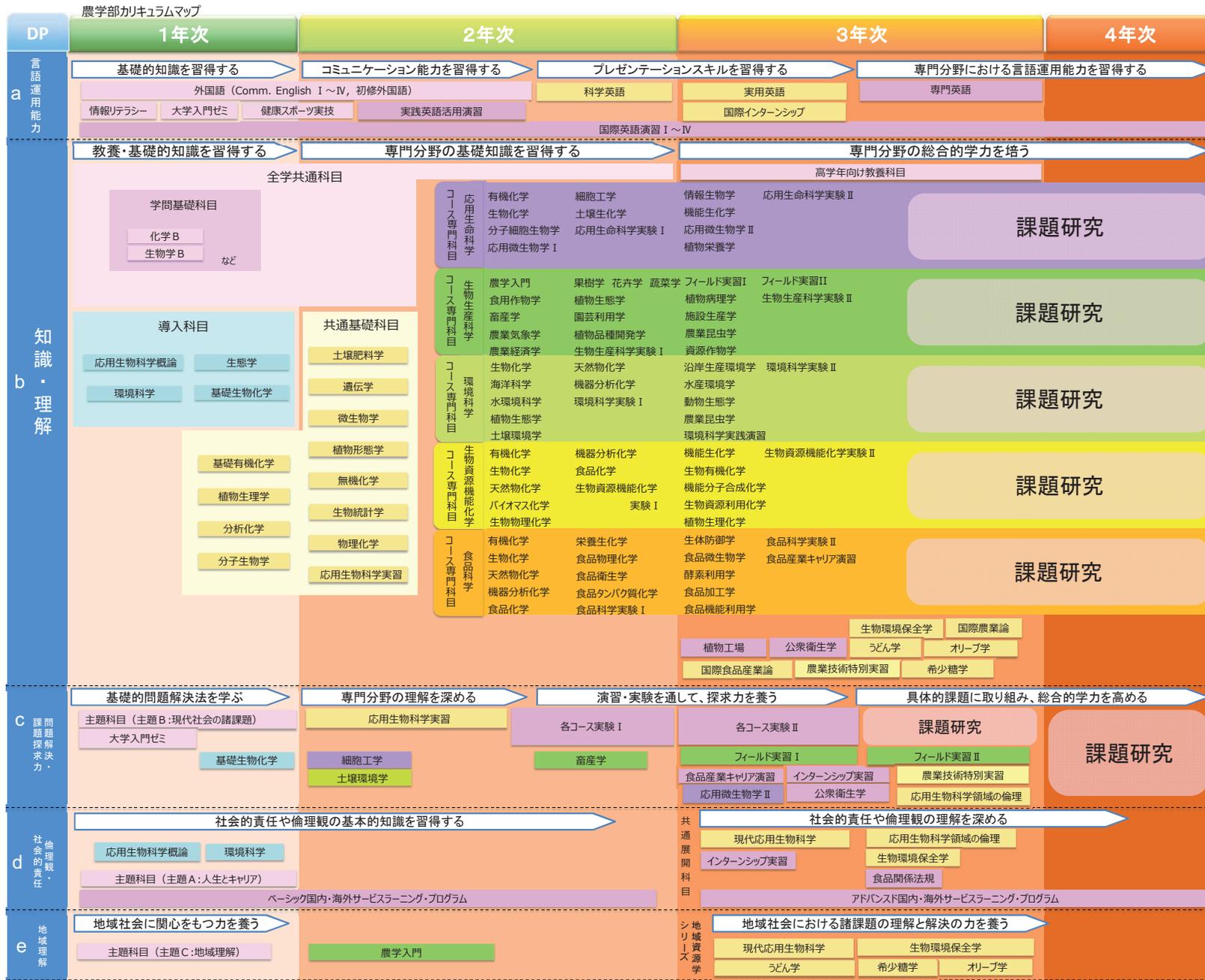
DP	1年次	2年次	3年次	4年次
a 言語運用能力	基礎的言語運用能力の修得		専門的言語運用能力の修得	
	外国語 (Communicative English I ~ IV)		卒業研究	
b 知識・理解	教養・自然科学の知識の修得		卒業研究	
	専門分野の知識の修得		卒業研究	
c 問題解決・課題探求能力	課題探求基礎能力		卒業研究	
	デザイン思考能力の基礎		卒業研究	
d 倫理的責任・地域理解	リスクマネジメント能力の基礎		卒業研究	
	専門分野のリスクマネジメント能力		卒業研究	
e 地域理解	デザイン思考関連知識		多角的知識・多角的思考能力	
	地域とアート		科学・技術史	
	全学共通科目	学部開設科目		

創造工学部 創造工学科(先端マテリアル科学コース)カリキュラムマップ

DP	1年次				2年次				3年次				4年次					
a 言語運用能力	基礎的言語運用能力の修得								専門的言語運用能力の修得									
	外国語 (Communicative English I ~IV)												卒業研究					
	外国語 (初修外国語)		外国語 (初修外国語)		データ解析・数値計算演習		異文化コミュニケーション		技術英語		マテリアルデザイン演習		対人コミュニケーション					
	健康スポーツ実技		健康スポーツ実技				国際コミュニケーション I		国際コミュニケーション II				プログラミング					
	大学入門ゼミ								海外工学実務 I, II									
情報リテラシー																		
b 知識・理解	教養・自然科学の知識の修得								専門分野の知識の修得									
	学問基礎科目				学問基礎科目				学問基礎科目				卒業研究					
	主題科目 (主題B)		主題科目 (主題)		主題科目 (主題B)		主題科目 (主題B)		主題科目 (主題B)		主題科目 (主題B)		先端マテリアル科学実験Ⅲ		先端マテリアル科学演習Ⅱ		先端マテリアル科学特別講義	
	数学C		微分・積分		ベクトル解析		無機化学Ⅰ		無機化学Ⅱ		有機化学Ⅱ		確率・統計		マテリアルデザイン演習		マテリアルリスクマネジメント演習	
	数学D		線形代数		無機化学Ⅰ		有機化学Ⅰ		有機化学Ⅱ		固体物理学Ⅰ		先端マテリアル科学演習Ⅲ		光材料物性		先端物質電磁気学	
	基礎数学演習				電磁気学Ⅰ		カ学		材料組織学Ⅰ		応用電気電子回路		固体物理学Ⅱ		電子材料物性		高分子科学	
	工業材料概論Ⅰ		工業材料概論Ⅱ		電磁気学Ⅱ		材料力学Ⅰ		量子力学Ⅰ		流体力学入門		高分子合成化学		材料強度学Ⅲ		構造材料リスク評価	
	物理学A		物理学B		カ学		材料力学Ⅰ		量子力学Ⅱ		物理学Ⅱ		材料強度学Ⅱ		トライボロジー入門		材料組織制御学	
	物理学P		物理学P		熱力学		熱力学		統計力学		物理化学		半導体工学		量子化学		エネルギー化学	
			基礎物理学演習						固体力学入門		生物工学入門		無機工業材料		信頼性工学		精密加工	
		基礎化学演習						計算機入門		材料強度学Ⅰ		生物環境材料		色彩学		ビッグデータ解析		
デザイン思考関連知識								多角的知識・多角的思考能力										
地域とアート		革新デザイン史						塑性加工		科学・技術史				電子回路Ⅰ				
								地域企業ニーズ概論		ビジネスモデル概論				資源・エネルギー論		環境政策		
c 問題解決・課題探求能力	課題探求基礎能力								専門分野の問題解決力・デザイン思考能力・実践力									
	主題科目 (主題B)								卒業研究									
	デザイン思考能力の基礎								デザイン思考能力の基礎									
	チームワーキング演習		チームワーキング演習		チームワーキング演習		チームワーキング演習		Web入門		デザイン思考演習		先端マテリアル科学実験Ⅱ		人間工学基礎		感性工学	
	チームワーキング演習		チームワーキング演習		チームワーキング演習		チームワーキング演習		マルチメディアクリエイティブ入門		先端マテリアル科学演習Ⅰ		先端マテリアル科学演習Ⅱ		マテリアルデザイン演習		マテリアルリスクマネジメント演習	
	チームワーキング演習		チームワーキング演習		チームワーキング演習		チームワーキング演習		情報セキュリティ概論		先端マテリアル科学実験Ⅲ		先端マテリアル科学特別講義		先端マテリアル科学演習Ⅲ		デザイン思考能力の基礎	
リスクマネジメント能力の基礎								専門分野のリスクマネジメント能力										
ロジカル思考演習		ロジカル思考演習		ロジカル思考演習		ロジカル思考演習		情報セキュリティ概論		工業と法		産業財産権		構造材料プロセス		産学協創工学		
リスクマネジメント概論		自然災害科学		レジリエンス科学				先端マテリアル科学実験Ⅰ		デザインの潮流				インテグレーションデザイン				
リスクコミュニケーション入門																		
d 倫理観・社会的責任	主題科目 (主題A)		主題科目 (主題A)		主題科目 (主題A)		主題科目 (主題A)						創造工学倫理					
e 地域理解	主題科目 (主題C)		主題科目 (主題C)		主題科目 (主題C)		主題科目 (主題C)											
			地域とアート								工学実務				産学協創工学			

全学共通科目

学部開設科目



- 全学共通科目
- 導入科目
- 応用生命科学コース専門科目
- 生物資源機能化学コース専門科目
- 共通基礎科目
- 生物生産科学コース専門科目
- 食品科学コース専門科目
- 共通展開科目
- 環境科学コース専門科目
- 特別講義、共通コース専門科目

申請様式④

プログラムを改善・進化させるための体制 （委員会・組織等）の設置規則等

【数理情報・遠隔教育部】

香川大学教育基盤センター規程

香川大学大学教育基盤センター規程

平成19年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、香川大学組織規則第18条第2項の規定に基づき香川大学大学教育基盤センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、教養教育の充実及び教養教育と専門教育の有機的連携を図り、香川大学（以下「本学」という。）の教育目標を達成するため、全学共通科目に係る企画、運営等を行い、本学の全学共通科目の授業実施を円滑に行うとともに、全学共通教育について自己点検・評価し、その改革・改善の方策について調査研究を行うことや大学教育の開発を行うことで、大学教育の質的充実に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学共通科目の授業実施に係る企画・運営に関すること。
- (2) 全学共通教育の改革・改善、全学共通教育に関する調査研究及び提言に関すること。
- (3) 全学共通教育に係る自己点検・評価に関すること。
- (4) 大学教育に係るファカルティ・ディベロップメントに関すること。
- (5) 外国語教育の改善等の研究・調査に関すること。
- (6) 留学生教育に関すること。
- (7) フィールドワーク型授業等の地域志向科目の教育に関すること。
- (8) ICTを活用した教育に関すること。
- (9) 学部を超えた全学的な教育プログラムに関すること。
- (10) 大学教育に関する紀要・広報誌の発行に関すること。
- (11) その他センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

(組織)

第4条 センターは共通教育部、調査研究部、国際教育部、地域教育部、能力開発部及び数
理情報・遠隔教育部で組織する。

2 センターに、地域教育部、能力開発部及び数理情報・遠隔教育部を統括的にコーディネーターする創造教育推進部門を置く。

3 国際教育部に、外国語教育、留学生教育及びグローバル教育の各セクションを置く。

(外国語自習室)

第4条の2 センターに、外国語自習室を置く。

2 外国語自習室に関し必要な事項は、別に定める。

(職員)

第5条 センターに、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) センター長
- (2) 共通教育部長
- (3) 調査研究部長
- (4) 国際教育部長
- (5) 地域教育部長
- (6) 能力開発部長
- (7) 数理情報・遠隔教育部長
- (8) 創造教育推進部門長
- (9) センター主担当教員
- (10) 全学共通教育コーディネーター
- (11) その他必要な職員

(センター長)

第6条 センター長の任命は、本学専任教授の中から、学長が指名する理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第7条 学長は、必要に応じて、第5条第2号から第7号に規定する部長（以下「部長」という。）及び第5条第9号に規定するセンター主担当教員のうちから副センター長を命ずることができる。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

3 副センター長の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部長等)

第8条 部長及び部門長（以下「部長等」という。）の任命は、センター長の申出に基づき、

学長が行う。

- 2 前項の申出は、本学専任教授の中から第12条に規定するセンター会議の意見を参考に
した部長等候補者を推薦することにより行う。
- 3 部長等は、各部及び部門の業務を処理する。
- 4 部長等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、部長等が辞任をした場合又は欠員
となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部長等の選考時期)

第9条 部長等の選考は、次の各号の1に該当する場合に行う。

- (1) 任期が満了するとき。
 - (2) 辞任を申し出たとき。
 - (3) 欠員となったとき。
- 2 部長等の選考は、前項第1号の場合には任期満了の1月以前に、同項第2号又は第3号
の場合には速やかに行うものとする。

(センター主担当教員)

第10条 センター主担当教員の任命は、学長が行う。

- 2 候補者の教育研究業績の審査について、学長から付託された場合において、第12条に
定める香川大学大学教育基盤センター会議が審査したセンター主担当教員候補者を報告
する。

(全学共通教育コーディネーター)

第11条 全学共通教育コーディネーターの任命は、センター長の推薦に基づき、学長が行
う。ただし、センター所属以外の教員を推薦する場合は、当該教員の所属長の了承を得る
ものとする。

- 2 前項の任命は、本学教員(ただし、助教を除く。)の中から行い、科目領域教員会議の
意見を参考にすることができる。
- 3 全学共通教育コーディネーターは、全学共通教育の改革及び編成・実施に関与する。
- 4 全学共通教育コーディネーターの任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、全学共通
教育コーディネーターが辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者
の残任期間とする。

(センター会議)

第12条 センター業務の円滑な実施に関する重要事項を審議するため、香川大学大学教育
基盤センター会議(以下「センター会議」という。)を置く。

2 センター会議に関し必要な事項は、別に定める。

(共通教育部の業務)

第13条 共通教育部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学共通教育の授業科目の実施に関する事。
- (2) 全学共通教育の授業内容の調整に関する事。
- (3) 全学共通教育の授業担当教員(非常勤講師を含む。)の選任に関する事。
- (4) 全学共通教育の授業時間割の編成(教室の配当及び授業クラスの編成を含む。)に関する事。
- (5) 全学共通教育の試験に関する事。
- (6) 全学共通教育の学生参考用図書(指定図書を含む。)の推薦に関する事。
- (7) その他全学共通教育の授業の実施に関する事。

(共通教育部の構成)

第14条 共通教育部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 共通教育部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 各学部から選出された全学共通教育コーディネーター
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 全学共通教育を円滑に実施するため、本学の教授、准教授、及び講師は、いずれかの科目領域に所属するものとし、その領域の代表を科目領域幹事とする。

なお、助教はいずれかの科目領域に所属できるものとする。科目領域に関し必要な事項は、別に定める。

3 共通教育部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(調査研究部の業務)

第15条 調査研究部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学共通教育の調査及び研究に関する事。
- (2) 全学共通教育のカリキュラム開発に関する事。
- (3) 全学共通教育の自己点検・評価に関する事。
- (4) 学部を超えた全学的な教育プログラムの開発に関する事。
- (5) その他全学共通教育の改革・改善に関し必要な事。

(調査研究部の構成)

第16条 調査研究部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 調査研究部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 科目領域から選出された全学共通教育コーディネーター
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 調査研究部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(国際教育部の業務)

第17条 国際教育部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 外国語教育の改善等の研究・調査に関すること。
- (2) 外国語によるコミュニケーション能力育成のための教材開発及び教育方法等の改善に関すること。
- (3) 外国語自習室の運営に関すること。
- (4) 英語学習システムに関すること。
- (5) 英会話講座等の企画・実施に関すること。
- (6) 派遣留学生の語学力の支援に関すること。
- (7) 留学生に対する日本語等の教育に関すること。
- (8) 留学生教育等に係る調査研究に関すること。
- (9) その他国際教育に関し必要なこと。

(国際教育部の構成)

第18条 国際教育部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 国際教育部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 留学生センターから選出された教員
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 国際教育部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(地域教育部の業務)

第19条 地域教育部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) フィールドワーク型授業等の地域志向科目の設計、評価方法に関すること。
- (2) 地域志向科目の教育支援に関すること。

(3) その他地域教育に関し必要なこと。

(地域教育部の構成)

第20条 地域教育部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 地域教育部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 地域連携・生涯学習センターから選出された教員
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 地域教育部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(能力開発部の業務)

第21条 能力開発部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) ファカルティ・ディベロップメントの企画及び実施に関すること。
- (2) 学生による授業評価の企画及び実施に関すること。
- (3) カリキュラム評価の企画及び実施に関すること。
- (4) その他能力開発に関し必要なこと。

(能力開発部の構成)

第22条 能力開発部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 能力開発部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 各学部から選出された教員
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 能力開発部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(数理情報・遠隔教育部の業務)

第23条 数理情報・遠隔教育部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報通信技術活用教育の質向上に関すること。
- (2) 情報通信技術活用教育の開発及び支援に関すること。
- (3) 遠隔教育及びeラーニングによる教育に関すること。
- (4) その他ICT教育に関し必要なこと。

(数理情報・遠隔教育部の構成)

第24条 数理情報・遠隔教育部に、次の各号に掲げる職員等を置く。

- (1) 数理情報・遠隔教育部長
- (2) センター主担当教員
- (3) 情報メディアセンター(仮称)から選出された教員
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 数理情報・遠隔教育部の職員等の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、職員等が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(香川大学ネクストプログラム運営委員会)

第25条 第3条第9号の業務を遂行するため、香川大学ネクストプログラム運営委員会を置く。

2 前項の委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(紀要編集委員会)

第26条 第3条第10号の業務を遂行するため、紀要編集委員会を置く。

2 前項の委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(共通教育委員会)

第27条 共通教育部に、第13条各号の業務を遂行するため、共通教育委員会を置く。

2 前項の委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(調査研究部会議)

第28条 調査研究部に、第15条各号の業務を遂行するため、調査研究部職員等からなる調査研究部会議を設ける。

(国際教育部会議)

第29条 国際教育部に、第17条各号の業務を遂行するため、国際教育部職員等からなる国際教育部会議を設ける。

(地域教育部会議)

第30条 地域教育部に、第19条各号の業務を遂行するため、地域教育部職員等からなる地域教育部会議を設ける。

(能力開発部会議)

第31条 能力開発部に、第21条各号の業務を遂行するため、能力開発部職員等からなる能力開発部会議を設ける。

(数理情報・遠隔教育部会議)

第32条 数理情報・遠隔教育部に、第23条各号の業務を遂行するため、数理情報・遠隔教育部職員等からなる数理情報・遠隔教育部会議を設ける。

(事務)

第33条 センターの事務は、教育・学生支援部修学支援グループにおいて処理する。

(雑則)

第34条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行により香川大学大学教育開発センター規則（平成16年4月1日制定）は、廃止する。
- 3 削除
- 4 この規程の施行後最初に任命される第8条第1項の部長の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則（平成19年12月20日）

この規程は、平成19年12月20日から施行する。

附 則（平成22年4月1日）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成23年4月1日）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年10月1日）

- 1 この規程は、平成23年10月1日から施行する。
- 2 センター長の任命は、第6条第1項の規定にかかわらず、なお、当分の間、理事の中から学長が行うことができる。

附 則（平成25年4月1日）

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命されるセンター長の任期は、第6条第3項の規定にかかわらず、平成25年9月30日までとする。
- 3 この規程の施行後最初に任命される第8条第1項の部長の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則（平成27年4月1日）

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命されるセンター長の任期は、第6条第3項の規定にかかわらず、平成27年9月30日までとする。

- 3 この規程の施行後最初に任命される第8条第1項の部長の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成28年3月31日までとする。
- 4 この規程の施行後最初に任命される地域教育部長の任命の申出は、第8条第2項の規定にかかわらず、本学専任教授及び専任准教授の中から部長候補者をセンター長が推薦することにより行うことができる。
- 5 第17条第7号及び第8号に定める業務は、同号の規定にかかわらず、当分の間、留学生センターにおいて行う。

附 則（平成30年4月1日）

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成30年9月5日）

この規程は、平成30年9月5日から施行する。

附 則（令和2年4月1日）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和2年7月1日）

- 1 この規程は、令和2年7月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命される数理情報・遠隔教育部長は、令和2年6月30日にICT教育部長であった者とする。
- 3 この規程の施行後最初に任命される数理情報・遠隔教育部長の任期は、第24条第2項の規定にかかわらず、令和4年3月31日までとする。

申請様式⑤

自己点検・評価を行う体制 (委員会・組織等)の設置規則等

【情報リテラシー実施部会】

香川大学大学教育基盤センター

共通教育委員会調整部会及び実施部会細則

香川大学大学教育基盤センター共通教育委員会調整部会及び実施部会細則

(趣旨)

第1条 この細則は、香川大学大学教育基盤センター共通教育委員会規程第7条第3項の規定に基づき、香川大学大学教育基盤センター共通教育委員会調整部会及び実施部会（以下「調整部会及び実施部会」という。）に関し必要な事項を定める。

(任務)

第2条 調整部会及び実施部会は、カリキュラムの編成、実施、改善に関し、必要な事項を審議する。

(組織)

第3条 調整部会及び実施部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) カリキュラム調整部会

共通教育部長

各学部から選出された全学共通教育コーディネーター各1人

香川大学大学教育基盤センター共通教育委員会規程第7条第2項の規定に基づく部会長

修学支援グループ事務職員（以下「事務職員」という。）1人

その他部会長が必要と認めた者

(2) 主題A 実施部会

当該年度の授業担当教員（以下「授業担当教員」という。）のうち第5条第1号に規定する担当者会議から選出された幹事

センター教員2人

事務職員1人

その他部会長が必要と認めた者

(3) 主題B 実施部会

授業担当教員のうち第5条第2号に規定する担当者会議から選出された幹事

授業担当教員のうち第5条第2号に規定する担当者会議のB1からB6の各主題から選出された代表者各1人

センター教員2人

事務職員1人

その他部会長が必要と認めた者

(4) 主題C 実施部会

地域教育部長

センター教員2人

地域連携・生涯学習センターから選出された教員2人

数理情報・遠隔教育部から選出された教員1人

事務職員1人

その他部会長が必要と認めた者

- (5) 学問基礎科目実施部会
授業担当教員のうち第5条第4号に規定する領域から選出された各科目領域幹事1人。
センター教員2人
事務職員1人
その他部会長が必要と認めた者
- (6) 「学問への扉」実施部会
授業担当教員のうち第5条第5号に規定する担当者会議から選出された教員センター教員2人
事務職員1人
その他部会長が必要と認めた者
- (7) 大学入門ゼミ実施部会
授業担当教員のうち第5条第6号に規定する担当者会議から選出された各学部教員1人
センター教員2人
事務職員1人
その他部会長が必要と認めた者
- (8) 情報リテラシー実施部会
授業担当教員のうち第5条第7号に規定する担当者会議から選出された各学部教員1人
センター教員2人
事務職員1人
その他部会長が必要と認めた者
- (9) 外国語実施部会
国際教育部長
授業担当教員のうち第5条第8号に規定する領域から選出された教員6人（英語系1人、初修外国語系4人、日本語系1人）
センター教員2人
事務職員1人
その他部会長が必要と認めた者
- (10) 健康・スポーツ実技実施部会
授業担当教員のうち第5条第9号に規定する領域教員全員
事務職員1人
その他部会長が必要と認めた者

2 前項各号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときの補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長及び副部会長)

第4条 香川大学大学教育基盤センター共通教育委員会規程第7条第2項の規定に

基づく部会長及び副部会長の選出は、共通教育部長が実施部会の委員の中から指名するものとする。

2 部会長は、必要に応じて部会を開催し、その議長となる。

(担当国会議・領域)

第5条 授業実施を円滑に図るため、次の各号に掲げる担当国会議・領域を置く。

- (1) 主題A担当国会議
- (2) 主題B担当国会議
- (3) 主題C担当国会議
- (4) 学問基礎科目に関わる領域
- (5) 「学問への扉」担当国会議
- (6) 大学入門ゼミ担当国会議
- (7) 情報リテラシー担当国会議
- (8) 外国語に関わる領域
- (9) 健康・スポーツ実技に関わる領域

(幹事)

第6条 担当国会議・領域に幹事を置き、委員の互選とする。

2 幹事は、必要に応じて国会議を開催し、その議長となる。

(事務)

第7条 調整部会及び実施部会の事務は、教育・学生支援部修学支援グループにおいて処理する。

附 則

1 この細則は、平成19年4月1日から施行する。

2 この細則の施行に伴い、香川大学大学教育開発センター共通教育実施委員会部会細則(平成16年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この細則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成28年4月28日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、令和2年7月1日から施行する。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）

【香川大学】数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム

申請様式⑥

取組概要

概要

数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム

Society5.0をはじめとする未来社会の期待に応えるべく、
数理・データサイエンス・AI能力を備えた人材を育成する

【プログラム修了要件】 教育プログラムを構成する授業科目「情報リテラシーA」及び「情報リテラシーB」をすべて修得すること

1年次

第1クォーター

第2クォーター

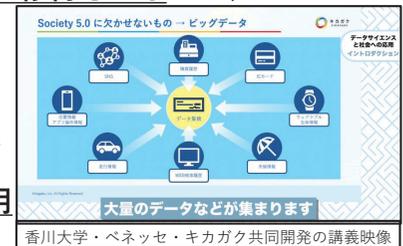
修了

情報リテラシーA（1単位）

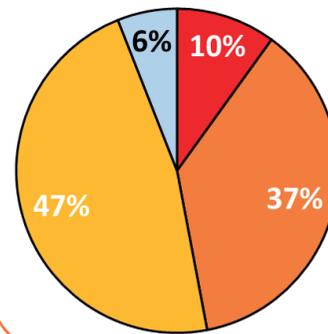
- 香川大学に入学した学生全員が、**文系理系を問わず、コンピュータ利用の基礎・基本**を早期に身につけるための、**1年次生対象**として**第1Q**に開講される**全学必修科目**
- 後の数理・データサイエンス・AI分野の学修を踏まえた、**コンピュータリテラシー**を修得
 - さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力
 - それらをモラルに則って活用する能力

情報リテラシーB（1単位）

- 香川大学に入学した学生全員が、**文系理系を問わず、数理・データサイエンス・AIの基礎**を身につけるための、**1年次生対象**として**第2Q**に開講される**全学必修科目**
- データサイエンスリテラシー**を偏りなく**体系的に修得させる**べく、株式会社ベネッセコーポレーション及び株式会社キカガクと講義コンテンツを**共同開発**
 - オンデマンド教材による**e-Learning講義**
 - 項目①②③④⑤（導入・基礎・心得）を網羅**
 - 産業界の視点が反映された最先端の教育**
 - 履修状況を分析しプログラム評価/改善に活用**
- 学生の関心を高め、好奇心を促すため、**社会での実例を豊富に採用**
 - 本学の特性を生かした事例**（香川県域における**香川大学教員の実践事例**）
 - 大学生にとって身近な事例**（小売業界、家賃計算など）



審査項目	情報リテラシーA	情報リテラシーB
項目① (導入1-1,1-6)	○	◎
項目② (導入1-2,1-3)		◎
項目③ (導入1-4,1-5)		◎
項目④ (心得3-1,3-2)	○	◎
項目⑤ (基礎2-1,2-2,2-3)	○	◎



【情報リテラシーB 授業後アンケート】
Q.データサイエンスという学問領域に関して、あなたの考えに近いものをお選びください。

本講義をきっかけとして
合計94%の学生に
興味・関心の向上が見られた

次の学修への意欲、動機付けになるような「学びの相乗効果」が生み出された

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）

【香川大学】数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム

申請様式⑦

その他補足資料

補足事項

プログラムの授業内容・概要、および教育の質・履修者数を向上させる体制



要点

数理・データサイエンス・AIリテラシープログラムは香川大学の全学生を対象とするプログラム
文理を問わない授業構成、e-Learningの活用、学習意欲の高い学生への配慮などの取り組みを実施

プログラムの授業内容・概要

全学必修科目のみで構成されたプログラム

学部・学科に関わらず全学生が受講可能

プログラム修得により見込める学修成果

- 1.数理・データサイエンスの必要性を説明できる
- 2.地域を含む実社会での数理・データサイエンスの事例を例示できる
- 3.どのような思考方法で数理・データサイエンスを扱うか、利用するアプリケーションも含めて説明できる
- 4.代表的な数理・データサイエンスの技術とその利点・欠点を概説できる
- 5.情報セキュリティ、情報モラルについて説明できる

必要なデータサイエンスリテラシーを短期間で学修

プログラム構成科目は1年次前期で完結

AI戦略2019における応用基礎レベル人材育成に向けた拡張性

情報リテラシーA プログラム対象講義	対応モデルカリキュラム
情報セキュリティ (各学部により表記が異なる)	導入1-1,心得3-1,3-2
表計算ソフト (各学部により表記が異なる)	基礎2-2,2-3

情報リテラシーB 講義	対応モデルカリキュラム
履修ガイダンス/ データ・AIにおける心得	導入1-1,心得3-1,3-2
数理・データサイエンスを活用した 地域活性	導入1-1,1-2,1-3,1-4,1-5
データサイエンスと社会への応用	導入1-1,1-2,1-3,1-4,1-5,1-6
実社会のデータサイエンスの事例	導入1-2,1-3,1-4,1-5,1-6
データサイエンス入門 1, 2	基礎2-1,2-2
機械学習の実装 1, 2	基礎2-1,2-2,2-3

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画

教務システムによる自動履修登録

香川大学の教務システムにより、情報リテラシーA・Bは自動登録されるため、毎年度、1年次全員が履修者となる

e-Learningの効果的な活用

情報リテラシーBはフルオンデマンドのe-Learning講義であるため、時間や場所を選ばず、自分の理解度に合わせ学修ペースを調整可能

情報リテラシーBの講義コンテンツを企業と共同開発

株式会社ベネッセコーポレーション、株式会社キカガクとの共同開発によって生まれた、最先端の数理・データサイエンス・AI講義

モデルカリキュラム「選択」相当の自由学習コンテンツを提供

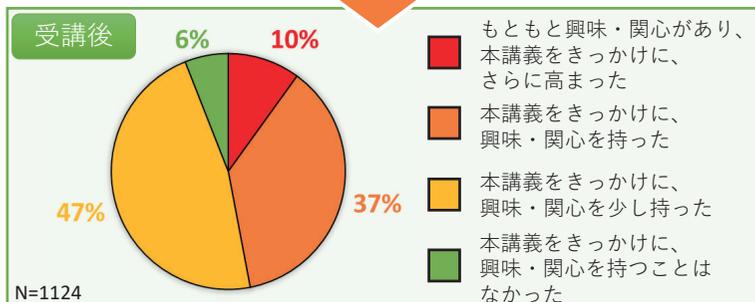
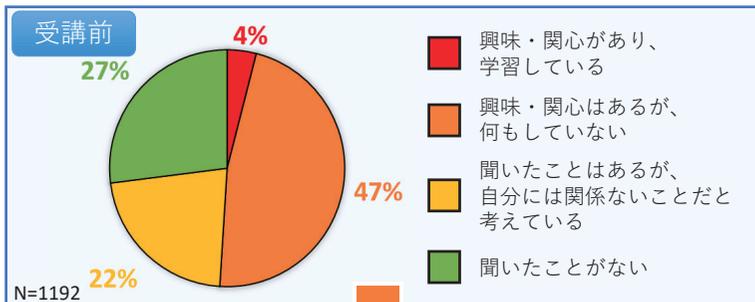
導入/心得/基礎を学修する必修コンテンツに加え、選択（オプション）を学修できる自由学習コンテンツ（下表）を公開し、学習意欲の高い学生にさらなる学修の場を提供

情報リテラシーB 自由学習コンテンツ	対応 モデルカリキュラム
微分	選択4-1
線形代数	
数理統計 1, 2	
ベイズ統計	選択4-7
R言語の基礎 1, 2	
Pythonの基礎 1, 2	選択4-8
単回帰分析	
重回帰分析	選択4-6,4-7, 4-8
機械学習（教師あり学習） 1, 2, 3, 4	
機械学習（教師なし学習）	選択4-7,4-9

補足事項 自己点検・評価に関する取り組み

年度ごとの授業評価・改善をはかるべく、情報リテラシーBでは以下の取り組みを実施
 ・講義アンケートを計3回（受講前・第4週授業後・受講後）実施し、講義の分かりやすさ・楽しさ調査、学びの相乗効果の検討をはかる
 ・教育工学系学会における成果報告、および企業による記事掲載協力・講演など、香川大学のデータサイエンス教育を学外へ周知

データサイエンス分野に関する学生の興味・関心の変化 アンケート結果比較（受講前/受講後）



データサイエンス分野に興味・関心がある学生の割合

受講前：合計 **51%** → 受講後：合計 **94%**

授業満足度調査 アンケート結果比較（中間/受講後）

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
中間	44%	39%	15%	1%	1%
受講後	41%	41%	15%	2%	1%

全8週の授業において、学生は高い満足度を維持

2020年度 教育工学系学会への成果報告

- 【日本科学教育学会】(2020.8.25-27 誌上发表)
香川大学における数理・データサイエンス教育の現状－情報リテラシーの再編－
- 【情報処理学会（コンピュータと教育研究会）】(2020.8.29 発表)
数理・データサイエンス教育の全学的な運用に向けた取り組み紹介
- 【電子情報通信学会（教育工学研究会）】(2020.11.14 発表)
香川大学における数理・データサイエンス教育の学習効果に関する検討

2020年度 企業による本プログラムの取り組み紹介

- 【Between情報サイト（株式会社 進研アド）】(2020.10.26 公開)
外部リソースを活用し1年次向けデータサイエンス教育を開始－香川大学
- 【ベネッセコーポレーションWEBセミナー】(2020.11.6 講演)
講演題目：「全学のAI・データサイエンス教育導入のポイント」

正直大変ではあったが、自分の理解に合わせて進められたし何度も見れた点が一番良かった。あまり実感していなかったが、多くの場所でデータサイエンスが使われていて驚いた。（農学部）

データサイエンスと聞くと、理系の人たちが専門的に行っているイメージがあった。しかしこの授業を通して、データサイエンスは私たちの身近なところで活用されており、専門的な知識がなくても扱うことができると分かった。（経済学部）

今のところ大学の動画形式の授業の中で一番見やすく、意欲の湧く授業だった。とても楽しかった。（創造工学部）



データサイエンスに興味がありませんでしたが、実は自分たちの身の回りでも活用されているということがわかり面白く感じた。また、データサイエンスはこれから自分が社会に出た時に役立つかもしれないと思った。（法学部）